

第一編

《調査研究部》

第1章 本年度の調査研究

1 研究主題

「いきいきとした生活をするために」

～安房の子ども達の自己肯定感を探る～

2 主題について

今、子ども達が抱える課題はさまざまである。例えば、不登校、引きこもり、いじめ、突然の暴力、規範意識の低下、低い耐性、乏しい表現力などがあげられる。さらに、あいさつができなかったり、他の子どもと上手にコミュニケーションをとることができなかったりと、心の中では一人一人が悩みなどを抱え込んでいるという状況も広がっている。そのような現象が表面化して、学校や家庭でいきいきとした生活を送ることができないことにつながり、学習や係活動、行事などに取り組む意欲にも悪影響を及ぼしている。

また、近年子ども達の自己についてのとらえ方に関する様々な調査結果が出されている。それらの結果で共通していることは、今の自分自身に不満を抱えているという子ども達の姿である。安房の教育現場でも子ども達との会話の中に、「どうせできない」「自信がない」「自分のことが嫌い」といった感情が見えかくれするなど、自己肯定感の低い子ども達が増えている。これらのこともいきいきと生活できない一つの要因になっていることがうかがえる。

以上の点から、子ども達の自己肯定感を高めることは必要であり、子ども達を取り巻く人（保護者・教師・友だちなど）との関わり合いが大切だと考えた。

そこで、安房教育研究所では安房地域の子ども達の自己肯定感と子ども達のいきいきとした生活との関係を探り、学校と保護者への一つの方向性が示唆できればと考え、本主題を設定した。

研究の方法としては、児童生徒に自分自身のこと・親や教師との関わりについてアンケートをとり、その結果の分析と考察をしていきたい。それにより、保護者の働きかけが児童生徒の自己肯定感にどのような影響を及ぼしているのか、また教師が児童生徒にどう関わるのが大切か明らかにしたいと考える。

アンケート調査の分析・考察とあわせて、研修を深めながら、子ども達がいきいきとした生活をするために具体的な提言を発信したい。

3 研究のねらい

安房の子ども達の「自己肯定感」と「学校や家庭内での行動・考え方」の関連性を調査することにより、今後の学校や家庭での教育のあり方について考察し、提言する。

4 調査の内容と方法

(1) 調査対象および内容

調査対象

安房管内の小学校4年生，6年生と中学校2年生

(安房教育研究所所員の所属する小中学校を中心に依頼)

調査内容

- ・自分自身に関すること
- ・学校や家庭での過ごし方
- ・子ども達の教師や親との関わり方

(2) 調査期間及び調査方法

平成23年9月上旬 無記名質問紙法

(3) アンケートの回収数

- ・小学校17校4年生 600名(抽出数200名)
- ・小学校17校6年生 644名(抽出数200名)
- ・中学校8校2年生 562名(抽出数200名)

(4) 結果の処理

回収したデータを表計算ソフトExcelに入力し，グラフ化，比較検討した。

また，データの一部を統計処理ソフトSPSSを使って，クロス集計及び χ^2 検定を行い，有意差を調査し，相関関係を調べた。

5 研究経過

月	研 究 活 動	内 容	月	研 究 活 動	内 容
5	総務会	今年度の計画	11	教育座談会	「学力向上のための，地域を挙げた取り組みを!!」
	第1回所員研究会	研究テーマの検討		第7回所員研修会	調査結果の分析と考察
6	第2回所員研修会	研究テーマの検討	1	第8回所員研修会	研究紀要の作成計画
	第3回所員研修会	調査の視点の検討		第9回所員研修会	研究紀要原稿作成
8	第4回所員研修会	アンケート作成	2	研究発表会	研究結果発表
	宿泊研修会	アンケート作成			今年度の反省とまとめ
	第5回所員研修会	アンケート配布	3	総務会	次年度の見通し
9	教育研究集会	アンケートの回収及び集計			
10	第6回所員研修会	調査結果の分析と考察			
	県外研修視察	港区立お台場学園			

第2章 調査研究の分析と考察

1 「いきいきとした生活」と「自己肯定感」との関連

(1) 安房の子ども達の生活に関わる意識

いきいきしている様子

自らを受容し、環境を肯定的にとらえ、積極的にに関わり、それによって何かが変わると自信をもっている様子。

普段、子ども達と接している中で子ども達がいきいきと生活していないと感じられることがある。そこで、子ども達の意識が実際どうなのかを以下の項目で調査した。

(**斜体太字** は「あまりそう思わない」「そう思わない」が4分の1以上をしめるもの)

(人)

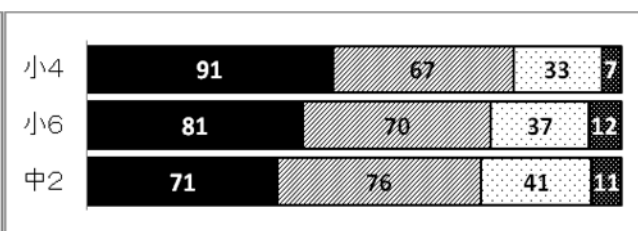
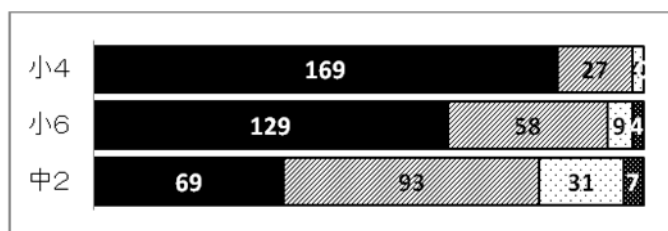
項 目	学年	そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
家族といえるのが楽しい。	小4	169	27	4	0
	小6	129	58	9	4
	中2	69	93	31	7
部活や特別練習をしているのが楽しい。	小4	91	67	33	7
	小6	81	70	37	12
	中2	71	76	41	11
授業をうけることが楽しい。	小4	68	94	33	5
	小6	29	104	61	6
	中2	11	70	88	31
学校行事に参加するのが楽しい。	小4	124	61	13	1
	小6	92	91	11	3
	中2	75	84	36	5
将来「やってみたいこと」や「なりたい職業」など自分なりの「夢」がある。	小4	190			10
	小6	178			22
	中2	152			48
苦しいけれどがんばったことや、大変だったけど楽しかった経験がある。	小4	192			8
	小6	186			13
	中2	181			17
目標に向かって努力している。	小4	98	73	25	4
	小6	66	95	32	7
	中2	25	101	64	9

自分の考えをみんなの前で発表している。	小4	35	69	72	24
	小6	29	62	87	22
	中2	13	51	96	40
勉強で難しい問題でもあきらめずとりくむ。	小4	51	85	43	9
	小6	41	98	55	5
	中2	11	82	81	26
友だちとなかよく遊ぶ。	小4	144	48	7	0
	小6	123	62	12	3
	中2	97	85	14	3
学校行事に積極的に参加する。	小4	79	86	28	6
	小6	62	93	36	6
	中2	46	92	43	14
部活動や特別練習に積極的に参加する。	小4	91	69	29	8
	小6	98	66	26	9
	中2	73	79	36	9
自分のクラスが楽しい。	小4	133	48	16	2
	小6	99	73	20	7
	中2	62	78	36	18
地域の行事に参加する。	小4	129	41	20	9
	小6	107	50	34	9
	中2	68	70	43	18

そう思う
 わりとそう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない

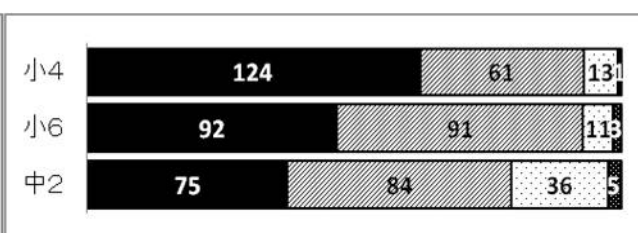
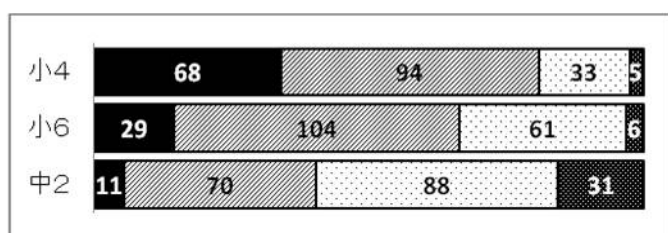
家族といるのが楽しい

部活や特別練習をしているのが楽しい

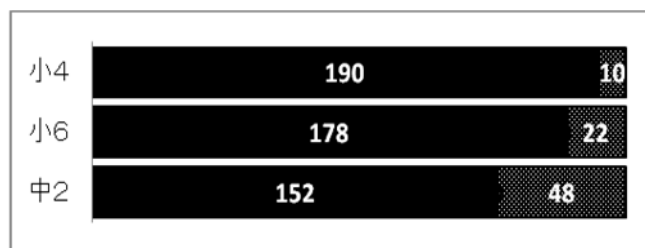


授業を受けることが楽しい

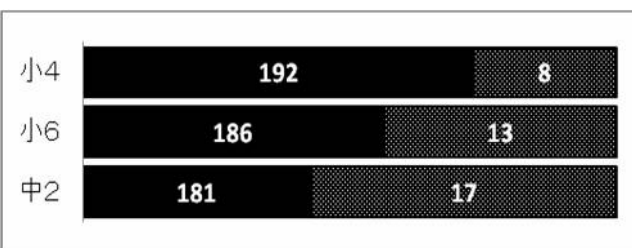
学校行事に参加するのが楽しい



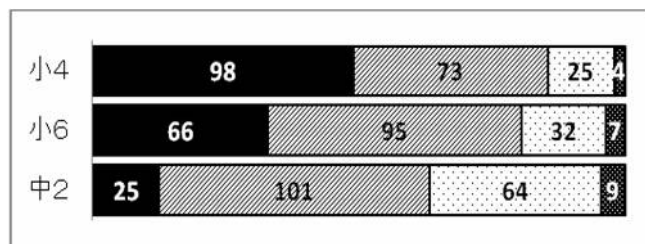
将来「やってみたいこと」や「なりたい職業」
など自分なりの「夢」がある



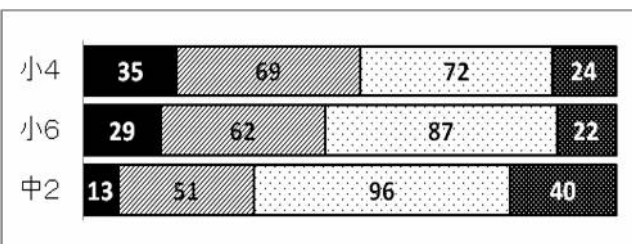
苦しいけれどがんばったことや、大変だった
けど楽しかった経験がある



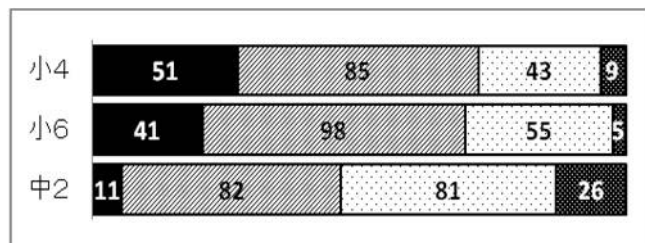
目標に向かって努力している



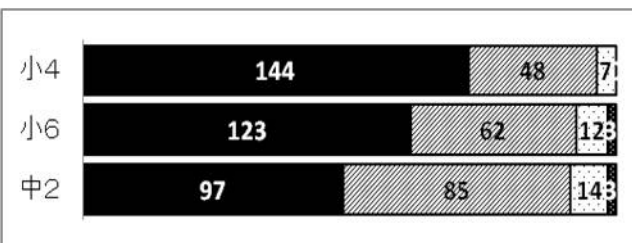
自分の考えをみんなの前で発表している



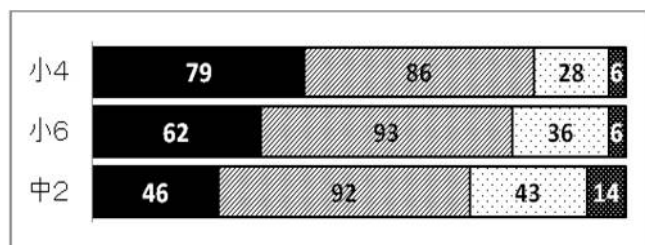
勉強で難しい問題でもあきらめずとりくむ



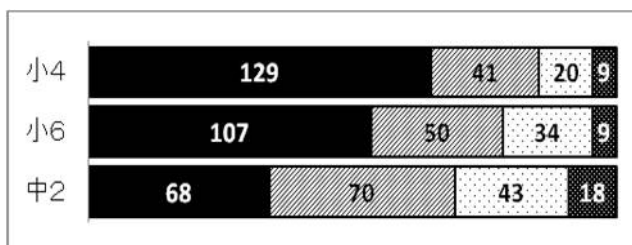
友だちとなかよく遊ぶ



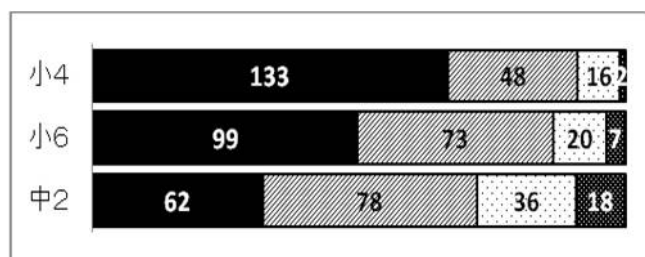
学校行事に積極的に参加する



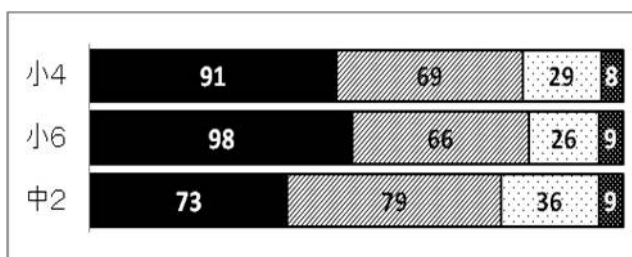
部活動や特別練習に積極的に参加する



自分のクラスが楽しい



地域の行事に参加する



上記の表から全体的な傾向として、肯定的なものが多い。しかし、学年に関わらず4分の1程度の子どもが否定的な回答をしている。項目によっては否定的な回答が4分の1以上をしめることから、子ども達がいきいきとしていない様子がうかがえる。さらに、学年が上がるにつれてその傾向は強まり、特に中2に関しては 顕著である。

(2) 「自己肯定感」について

自己肯定感とは、「自分はかけがえのない大事な存在だ。」と思える気持ちととらえる。自分という存在を否定するのではなく、欠点や短所も含めてありのままの自分を肯定的に認め、自分らしさを好きになり、身近な人間関係の中で自分を価値あるものとして思えるようになることが大切である。また、自分だけでなく他者も含め肯定していけることも大切である。

～安房教育研究所調査研究部で考える「自己肯定感」について～

上記「自己肯定感」に自尊感情測定尺度（慶応義塾大学）の5つの観点を参考にする。

- | | | |
|-------------|--------------|------------|
| A 自己評価 | B 自己受容 | C 関係の中での自己 |
| D 将来展望や自己決定 | E 精神的強さ、落ち着き | |

この中の自己評価（自分には良いところがある。）、自己受容（私は自分のことが好きだ。）、関係の中での自己（私には自分を必要としてくれる人がある。）をベースに他のアンケート項目と関係を考察した。

(3) 群別に分けると

本調査では、以下の質問項目をもとに、調査対象児童・生徒を自己肯定感が高い群と低い群に分け考察していくこととする。

- | |
|----------------------------|
| 質問項目 |
| ・自分にはいいところがたくさんある。（自己評価） |
| ・自分は自分のことが好きだ。（自己受容） |
| ・自分は人から必要とされている。（関係の中での自己） |

※「そう思う」・・・1点、「わりとそう思う」・・・2点、「あまりそう思わない」・・・3点、「そう思わない」・・・4点と点数化し、3項目の合計点が7点以下を「高い群」、8点以上を「低い群」とした。

各学年の分類は以下の通りである。

	高い群（人）	低い群（人）
小4	128	72
小6	94	106
中2	65	135

調査より、小4では、自己肯定感が高い子どもの方が多いが、小6、中2は低い子どもの方が多くなる。また、学年が上がるほど、自己肯定感が高い子どもが減少していく。

2 自己肯定感の高低による子ども達の様子

ここでは、安房の小学4年生、6年生、中学2年生の自己肯定感と子ども達の様子について

- (1) 自分自身について
 - (2) 家庭・地域とのかかわり
 - (3) 学校生活について

という3つの場面に分け、自己肯定感の高い群と低い群についての比較をした。なお、以下のグラフでは自己肯定感が高い群を肯定高、低い群を肯定低と表す。

質問に対する回答パターン表示は次のとおりである。

そう思う
 わりとそう思う
 あまりそう思わない
 そう思わない
 無回答

また、データは統計処理ソフト SPSS を使って χ^2 検定を行い、有意差を調査し、相関関係を調べた。表中では有意差 p を*で表示する。有意差は数値が小さいほど相関が強いことを示す。

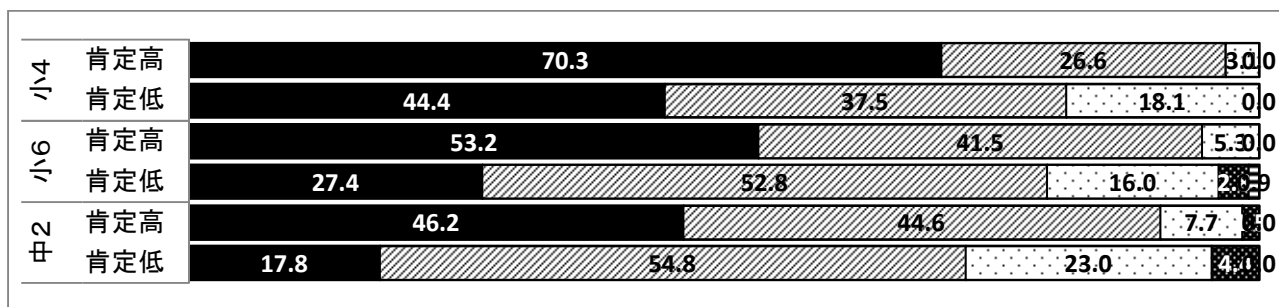
($p \leq 1\%$ …「** (かなり相関が強い)」, $1\% < p \leq 5\%$ …「* (やや相関が強い)」)

(1) 自分自身について

ここでは、子ども達自身が自己のことをどうみているか調査し、考察する。

① 誰かのために何かをしたい

「そう思う」「わりとそう思う」の割合は、小4 91.5%、小6 87%、中2 78.5%と学年が上がるにつれて数値が低くなっている。



(小4 .000** 小6 .001** 中2 .000**)

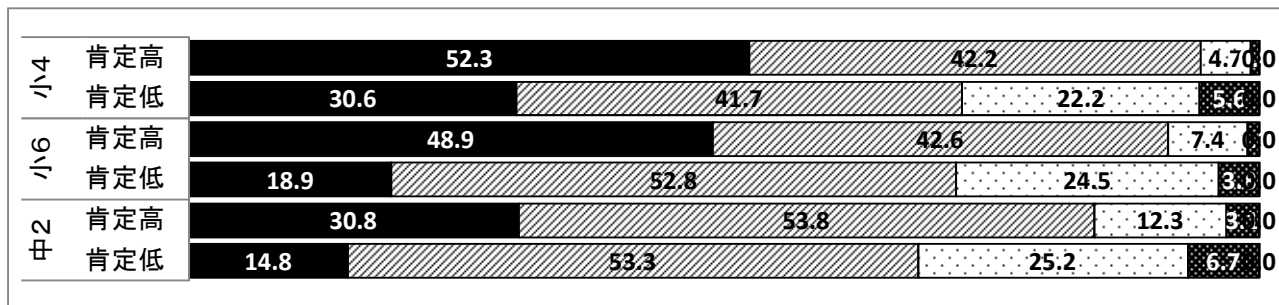
自己肯定感が高い群は誰かのために何かをしたいと思う割合が高い。

		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小4	肯定高	90	34	4	0	0
	肯定低	32	27	13	0	0
小6	肯定高	50	39	5	0	0
	肯定低	29	56	17	3	1
中2	肯定高	30	29	5	1	0
	肯定低	24	74	31	6	0

自己肯定感の高低別にみていくと、自己肯定感が高い群の「そう思う」「わりとそう思う」割合は各学年ともに90%以上である。自己肯定感が低い群は「あまりそう思わない」「そう思わない」割合が約20%だが、実際的人数では小4・13人、小6・20人、中2・37人と学年が上がるにつれ増えている。

② 社会（学級・学校・地域など）に役立つことをしたい

「そう思う」「わりとそう思う」の割合は、小4 86.5%、小6 81%、中2 73.5%と学年が上がるにつれ数値が低くなっている。



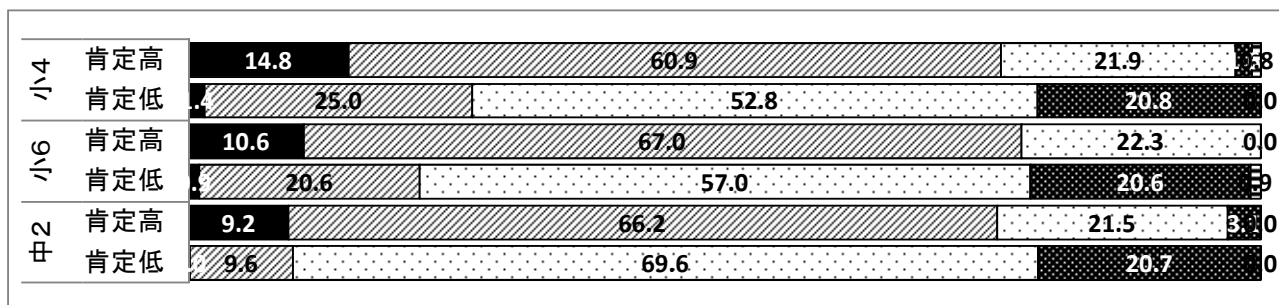
(小4 .000** 小6 .000** 中2 .018**)

「誰か」から「社会」に対象を広げた場合にも同様の傾向がみられる。

自己肯定感の高低でわけると上のグラフになる。①のグラフと同じような傾向がみられるが、①のグラフに比べ自己肯定感が低い群に関しては、「あまりそう思わない」「そう思わない」割合が小4では27.8%、小6では28.3%、中2では31.9%と増えている。

③ 役立つ人間だと思う

「そう思う」「わりとそう思う」の割合は、小4 58%、小6 47.8%、中2 31%と今までと同じく、学年が上がるにつれて値が低くなっている。また、他の項目に比べ著しく低い割合となった。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .000**)

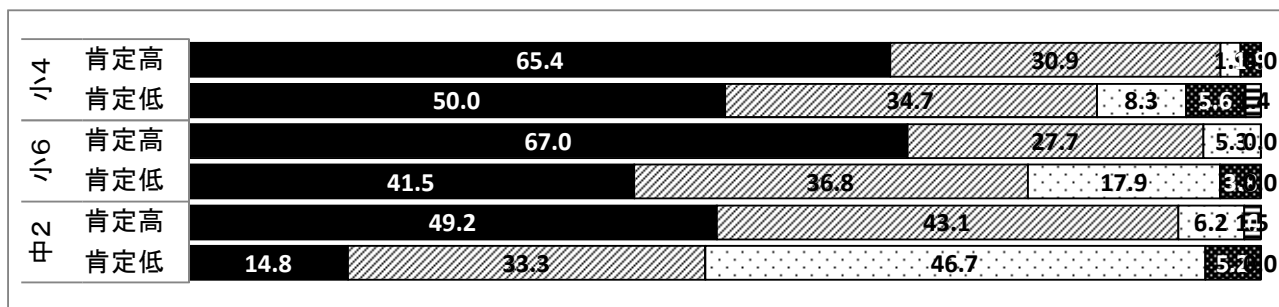
自己肯定感が高い群と低い群では大きな違いがある。

		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小4	肯定高	19	78	28	2	1
	肯定低	1	18	38	15	0
小6	肯定高	10	63	21	0	0
	肯定低	1	22	61	22	1
中2	肯定高	6	43	14	2	0
	肯定低	0	13	94	28	0

自己肯定感の高い群では「そう思う」「わりとそう思う」の割合は75%以上に対し、自己肯定感の低い群では数値の逆転が起こり、「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が70%を超え、実際的人数では小4の53人、小6の83人、中2の122人が自分は役に立たないと考えている。さらにその中でも各学年とも20%が「そう思わない」と回答している。

④ 得意なものがある

「そう思う」「わりとそう思う」の割合は、小4 91.5%，小6 86%，中2 62.5%である。
中2の割合が急激に下がる。



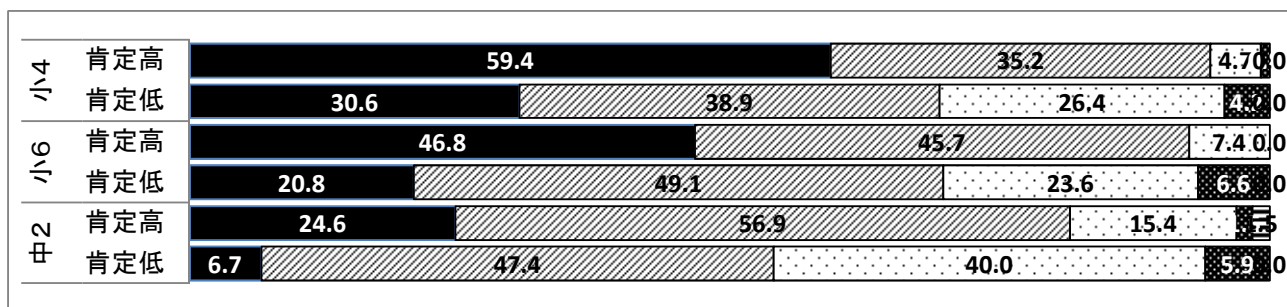
(小4 .000** 小6 .001** 中2 .000**)

発達段階の差が大きく表れている。

自己肯定感が高い群では90%以上が得意なものがあると回答している。中2の自己肯定感が低い群に関しては、得意なものがあるという回答が48.1%，得意なものがないと回答しているのが51.8%と半数になっている。

⑤ 自分は目標に向かって努力している

「そう思う」「わりとそう思う」の割合は、小4 85.5%，小6 80.5%，中2 63%である。
これも中2の割合が低い。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .000**)

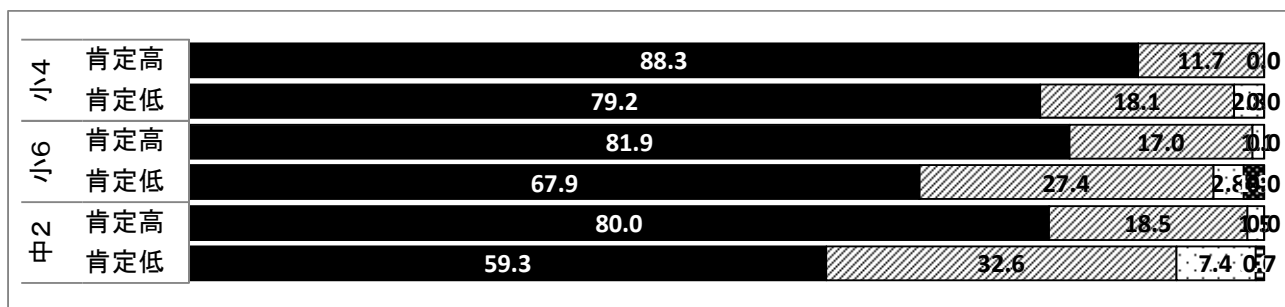
各学年とも自己肯定感が高い群の方が「そう思う」「わりとそう思う」の割合が高い。

		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小4	肯定高	76	45	6	1	0
	肯定低	22	28	19	3	0
小6	肯定高	44	43	7	0	0
	肯定低	22	52	25	7	0
中2	肯定高	16	37	10	1	1
	肯定低	9	64	54	8	0

実数でみると、小4が171人、小6が161人、中2が126人という子どもが努力していると回答している。中2でも半数以上、小4・6年では80%以上の子どもが目標に向かって頑張っていることがわかる。しかし、中2の自己肯定感の低い群の46%が目標に向かって努力していないと回答している。

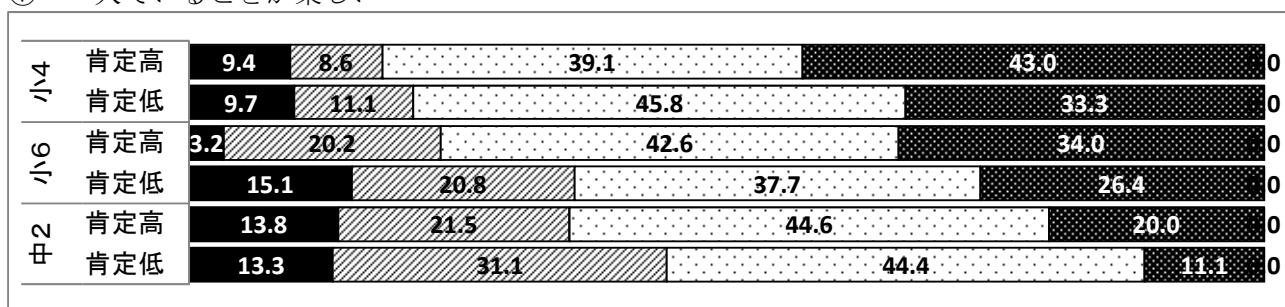
また、各学年とも「そう思う」「わりとそう思う」回答について、自己肯定感が高い群と低い群では小4で25.1%，小6で22.6%，中2で27.4%の差がある。

⑥ 友達といることが楽しい



(小4 .070 小6 .101 中2 .013*)

⑦ 一人でいることが楽しい



(小4 .592 小6 .034 中2 .270)

⑥⑦の項目では自己肯定感の高低ではっきりした相関関係はみられない。

友達といることを楽しいと感じるのは自己肯定感の高い群、低い群ともに90%以上である。

- ・自己肯定感の高低に限らず、自分自身が誰かのために何かをしたいという意識や、社会に役に立ちたいという意識はほとんどの子どもがもっている。しかし「あまりそう思わない」「そう思わない」を自己肯定感の低い群が選ぶことが多いのは、他者から認められる経験が少なく、達成感や満足感を得られなかったのではないかと考える。
- ・①②より自己肯定感が低い群では、「誰かのために何かをしたい」、「社会の役に立ちたい」と考えているが、自分自身が役立つと考えられていない。思いはあるが、自身の価値を見いだせていない子ども像が想像できる。積極的に関わることができず、いきいきと生活ができていないことが考えられる。
- ・④をみると自己肯定感が高い群の子どもは、得意なことがあることにより自分自身に自信をもっていると考えられる。反対に自己肯定感が低い群の子どもは中2が顕著であるが、得意なものがなく自分自身に自信が持てなくなっていると考えられる。発達段階を踏まえると、自分と他者とを比較して自分自身が劣っているものを強く意識してしまうのではないかと考える。

- ・自己肯定感の高い子ども達の方が目標に向かって努力できることがわかる。中2の自己肯定感が低い子ども達の「目標に向かって努力できている」かは、徐々に進路等の現実と向き合う時期になることで特に数値の低さとして顕著に表れたのではないかな。
- ・グラフ②の「社会に対し役立つことをしたい」と考える子どもが多いことも、子ども達は社会とつながりを持ち、第三者から認められたという体験や評価が欲しいと感じているのではないだろうか。周りに認められたことで、自分にとって得意なものがあるという意識や自信につながっていくことの一助になっていくことのあらわれだとも思う。
- ・ほかの調査項目からは、安房の子ども達の様子は、自己肯定感の高低に関わらず、友達と一緒にいることが楽しく、一人でいることは好きではないということがいえる。その点でも、他人との関係を築きたいという姿がわかる。

自分自身に関心を持たせ、得意なものに気づかせていくことが、自信にもつながる。
周囲や社会と関われるような機会をつくる。

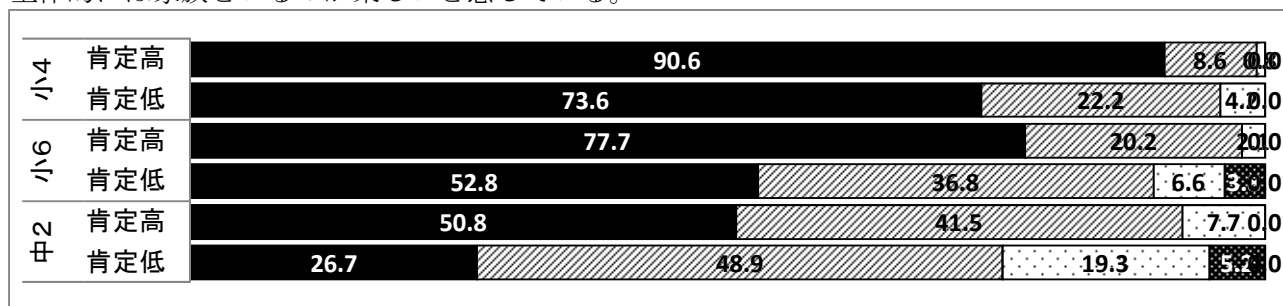
(2) 家庭・地域とのかかわり

ここでは、子ども達が家庭や地域の中でどのような意識をもって生活を送っているのか調査し、考察する。そして、そのことが自己肯定感の高い群、低い群別にどのように関連しているのかを述べる。

まず、家庭に関することについて調査した。

① 家族といるのが楽しい

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は98.0%，小6は93.5%，中2は81.0%で全体的には家族といるのが楽しいと感じている。



(小4 .005** 小6 .002** 中2 .002**)

自己肯定感が高い群の方が家族といるのが楽しいと感じている割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は

小4 肯定高 99.2% 肯定低 95.8% 差 3.4%

小6 肯定高 97.9% 肯定低 89.6% 差 8.2%

中2 肯定高 92.3% 肯定低 75.6% 差 16.8%

となる。どの学年も家族といるのが楽しいと思う割合は、自己肯定感が高い群の方が低い群よりも高い。

さらに、学年が上がるにつれ自己肯定感が高い群と低い群の、「そう思う」「わりとそう思う」の割合の差が広がっている。

自己肯定感が低い群は、家族といることを楽しいと感じられない割合が増えている。

小4・小6・中2の自己肯定感が高い群で「そう思う」「わりとそう思う」を比較すると、割合の大差は見られない。しかし、低い群に注目すると、

小4 「あまりそう思わない」「そう思わない」4.2%

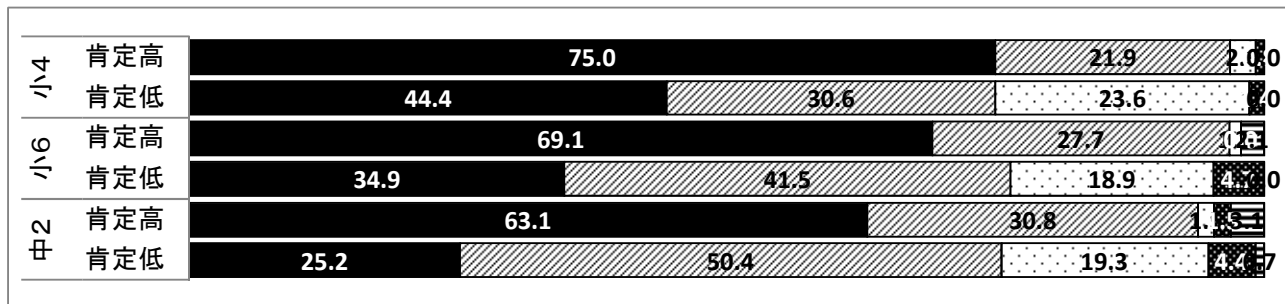
小6 「あまりそう思わない」「そう思わない」10.4%

中2 「あまりそう思わない」「そう思わない」24.4%

となり、「あまりそう思わない」「そう思わない」と感じている割合が高くなっている。

② 家族から大事に思われている

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は89.0%、小6は86.0%、中2は81.5%で、全体的には家族から大事に思われていると感じている。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .000**)

自己肯定感が高い群の方が家族から大事に思われていると感じている割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 96.9% 肯定低 75.0%

小6 肯定高 96.8% 肯定低 76.4%

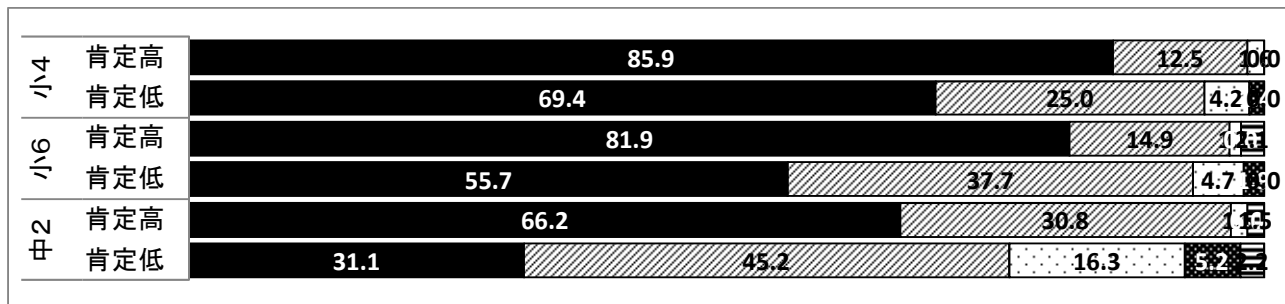
中2 肯定高 93.8% 肯定低 75.6%

となる。どの学年も家族から大事に思われていると思う割合は、自己肯定感が高い群の方が低い群よりも高い。

また、自己肯定感の低い群は20%強の割合で大事に思われていないと感じているという実態がある。

③ 家族のことを大切だと思う

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は97.0%、小6は95.0%、中2は83.0%で、全体的には家族のことを大切だと感じている。



(小4 .032* 小6 .000** 中2 .000**)

中2では、家族のことを大切だと思う割合の差が、自己肯定感の高い群と低い群で広がる。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 98.4% 肯定低 94.4% 差 4.0%

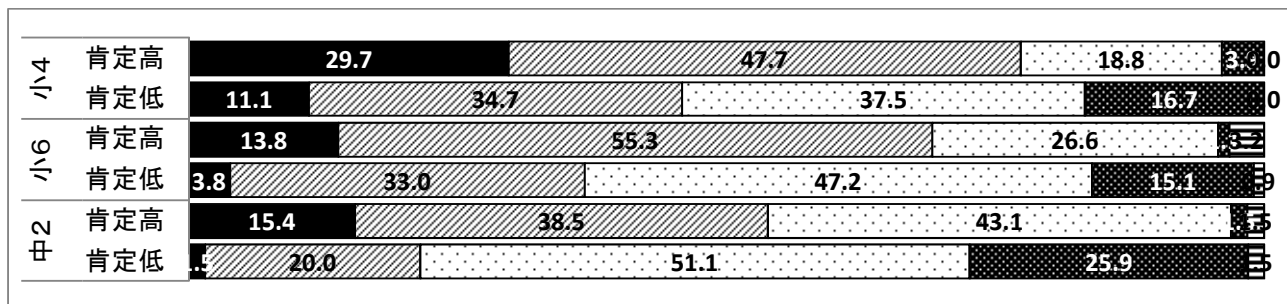
小6 肯定高 96.8% 肯定低 93.4% 差 3.4%

中2 肯定高 96.9% 肯定低 76.3% 差 20.6%

となる。小学生の段階では、自己肯定感の高い群と低い群で家族のことを大切に思う割合に大きな差はないが、中2ではその差が広がる。

④ 家でよくほめられる。

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は66.0%、小6は52.0%、中2は32.0%で、他の項目と比べると割合が低い。特に、中2に関しては、70%近くの子どもがよくほめられると思っていないことがわかる。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .000**)

自己肯定感が高い群の方がよくほめられていると感じている。

		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
小4	肯定高	38	61	24	5	0
	肯定低	8	25	27	12	0
小6	肯定高	13	52	25	1	3
	肯定低	4	35	50	16	1
中2	肯定高	10	25	28	1	1
	肯定低	2	27	69	35	2

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 77.3% 肯定低 45.8%

小6 肯定高 69.1% 肯定低 36.8%

中2 肯定高 53.8% 肯定低 21.5%

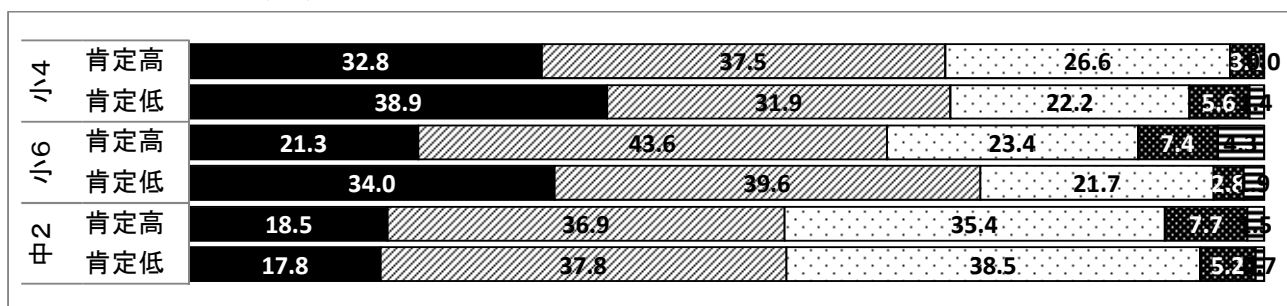
となる。どの学年でも自己肯定感の高い群の子どもの方がよくほめられていると感じていることがわかる。

学年があがるほど、家でよくほめられると感じていない。

家でよくほめられていると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた人数に着目すると、自己肯定感の高い群、低い群に関わらず、小4の132人、小6の104人、中2の64人となった。小学生では半数以上の子どもが良くほめられている一方、中2になるとその数値が大きく減少している。

⑤ 家でよくしかられる

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は70.5%、小6は69.5%、中2は55.5%で学年があがるにつれ、家でよくしかられると感じている子どもの割合は減ってきている。



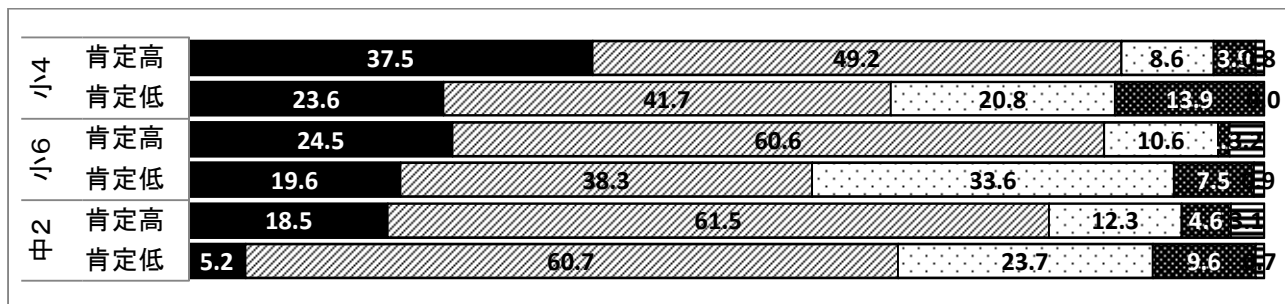
(小4 .156 小6 .591 中2 .898)

どの学年も相関関係はあまり見られない。

小4以外は、自己肯定感が低い群の方が家でよくしかられると感じている。ただ、相関関係は小4 .156 小6 .591 中2 .898 とどの学年もあまりみられない。

⑥ 家でのきまりや約束を守る

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は 79.0%，小6は 70.5%，中2は 70.5%で、全体的に家でのきまりを守ると感じている。



(小4 .002** 小6 .000** 中2 .006**)

自己肯定感の高い群の方が家できまりを守っていると思う割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、
 小4 肯定高 86.7% 肯定低 65.3%
 小6 肯定高 85.1% 肯定低 57.5%
 中2 肯定高 80.0% 肯定低 65.9%
 となる。どの学年も自己肯定感の高い群の方が、家できまりを守っていると思っている。学年が上がるにつれ、高い群は多少の減少が見られる。また、低い群の小6が8%他の学年よりも低い。

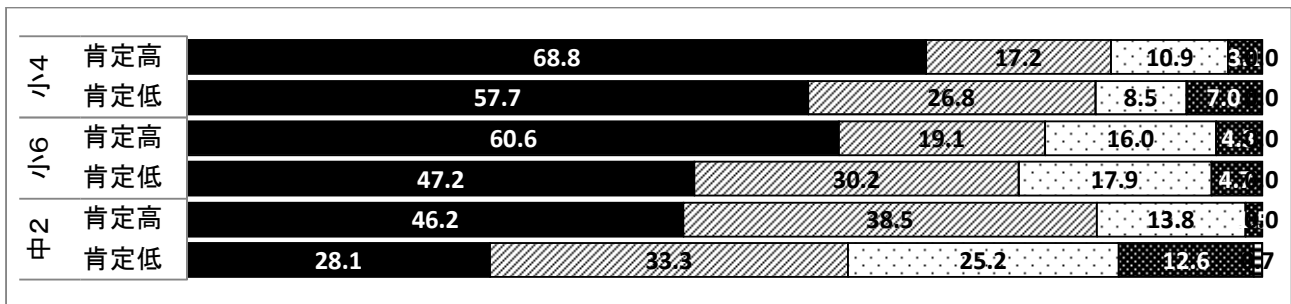
- ・「家族から大事に思われている」、「家族のことを大切だと思う」の2項目を比較すると中2に関してはそれほど大きな違いはないが、小4や小6の自己肯定感の低い群は、家族を大切だと思っているが家族から大事に思われていないと答える割合が大きい。このことから自己肯定感を形成する上で、家族とのかかわりが大きいことが言えるのではないかな。そこで、家庭でのコミュニケーションを多くとっていくことが大切だと考える。
- ・学年が上がるにつれほめられる経験が減っているか、または、ほめられると感じられなくなっているということが考えられる。そのため、家族は意識的にほめる場面を見つけ、子どもがほめられる場面を多くしていくことが大切である。また、しかられる経験よりもほめられる経験の方が自己肯定感の形成に大きく影響している。自己肯定感を高めるためにも子どもの良いところに目を向け長所を伸ばし、自信をもたせていくことが大切である。
- ・きまりを守っている子どもの方が、自己肯定感が高いことから、子どもの自主性を生かしながら親子で家庭でのきまりを話し合うことが大切である。そして、守れた時には積極的にほめていくことが重要である。

コミュニケーションを多くとる。良いところに目を向けほめる。
親子でともにルールを作る。

次に、地域での子ども達の様子について調査した。

⑦ 地域の行事に参加する

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は85.5%，小6は78.5%，中2は69.0%で学年が上がるにつれ地域行事に参加していると感じている割合は減少している。



(小4 .194 小6 .235 中2 .005**)

中2の自己肯定感の低い群は、地域行事に参加していると思う割合が低い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 85.9% 肯定低 84.7%

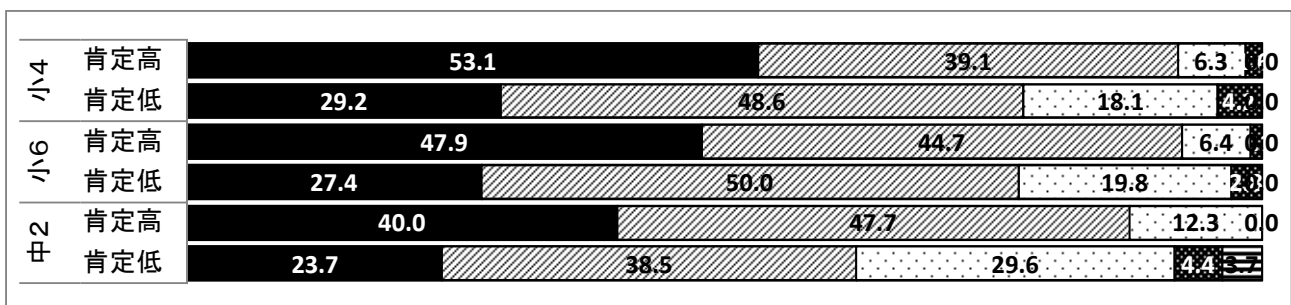
小6 肯定高 79.8% 肯定低 77.4%

中2 肯定高 84.6% 肯定低 61.5%

小学生の地域行事に参加すると答えた割合は、自己肯定感の高い群・低い群ともにほぼ同じである。しかし、中2のみ20%以上の差がみられ、相関関係があった。

⑧ 地域の人に挨拶をする

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は87.0%，小6は84.5%，中2は70.5%で全体的には地域の人に挨拶をしていると感じている。



(小4 .003** 小6 .004** 中2 .005**)

自己肯定感の高い群の方が地域の人に挨拶をしていると思う割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 92.2% 肯定低 77.8% 差 14.4%

小6 肯定高 92.6% 肯定低 77.4% 差 15.2%

中2 肯定高 87.7% 肯定低 62.2% 差 25.5%

となる。どの学年も自己肯定感の高い群の方が地域の人に挨拶をしていると思っている割合が高い。小学生に関しては、高い群と低い群の差は 15%程度とほぼ同じである。中2は 25.5%の開きがある。

- ・地域行事への参加については、中2の自己肯定感の高い群・低い群で大きな差が見られた。また、相関関係も見られた。中学生が地域に出て地域の人と関わりをもつ機会を作ることが必要である。そして、その機会が活躍できる場につながることで自己肯定感が高まり、子ども達がいきいきと生活できるのではないかな。
- ・地域の人へ挨拶をする、地域の行事に参加するなど、できることから地域に関わることにより、認められる場面や必要とされる場面が増えていくと思われる。子ども達と地域が双方向の関わりを發展させていくことで、自己肯定感が高まっていくのではないかと考える。

地域との関わりをもつ機会を作る。(ボランティアなどで人から感謝されたり、必要とされたりする場面)

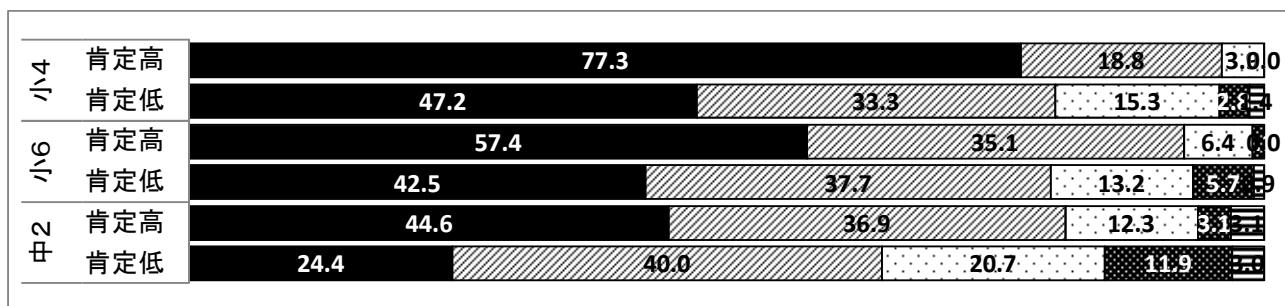
(3) 学校生活

ここでは、子ども達が平日の多くの時間を過ごす学校で、どのような意識をもって生活を送っているのか調査し、考察する。そして、そのことが自己肯定感の高い群、低い群別にどのように関連しているのかを述べる。

子ども達が所属するクラスや学習に対する意識について調査した。

① クラスは楽しい

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は90.5%、小6は86%、中2は70%で全体的にはクラスが楽しいと感じている。



(小4 .000** 小6 .053 中2 .010**)

自己肯定感の高い群はクラスが楽しいと答えた割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 96.1% 肯定低 80.6%

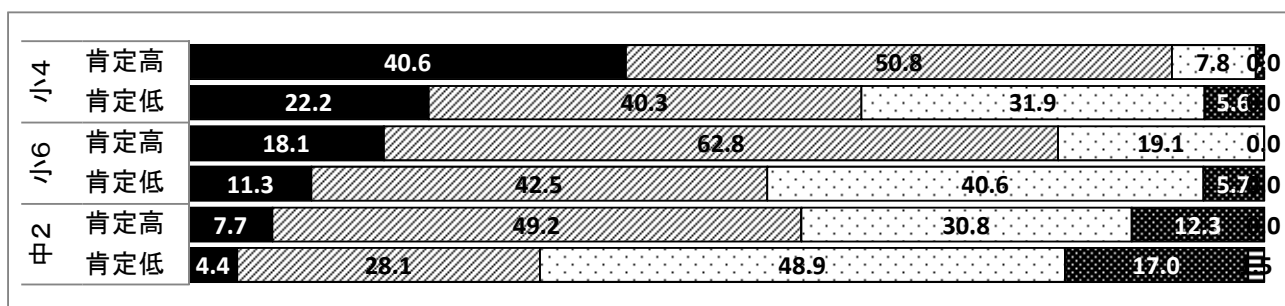
小6 肯定高 96.2% 肯定低 80.2%

中2 肯定高 81.5% 肯定低 64.4%

となる。自己肯定感の高い群の方が、クラスが楽しいと思っている割合が高い。また、中2では高い群、低い群ともに、小6から15%程度割合が低くなっている。

② 授業をうけることが楽しい

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4は81%、小6は66.5%、中2は40.5%で、学年が上がるにつれて割合が低くなっている。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .016**)

自己肯定感が高い群の方が、授業が楽しい割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 91.4% 肯定低 62.5%

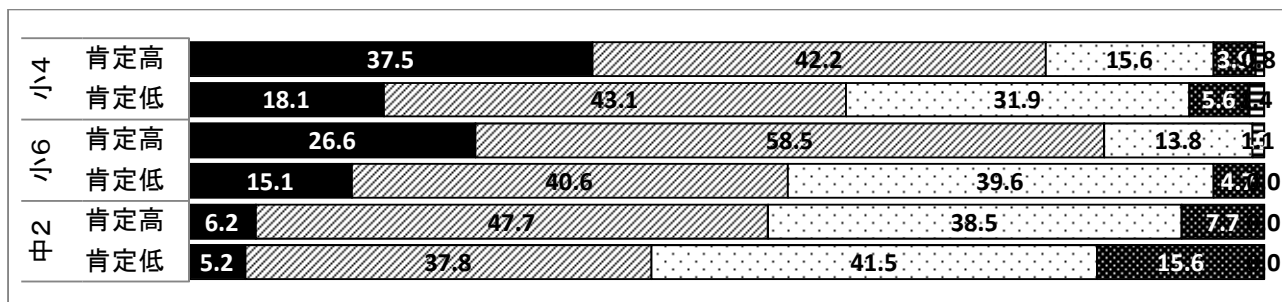
小6 肯定高 80.9% 肯定低 53.8%

中2 肯定高 56.9% 肯定低 32.5%

となり、自己肯定感が高い群の方が、授業が楽しいと感じている。特に中2の自己肯定感が低い群は、授業が楽しいと感じている割合が32.5%と低い。

③ 難しい問題でもあきらめずにとりくむ

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて小4は73%、小6は70%、中2は46.5%で、学年が上がるにつれて割合が低くなっている。



(小4 .008** 小6 .000** 中2 .346**)

小学生は自己肯定感の高い群の方が難しい問題にあきらめずにとりくむ割合が高い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 79.7% 肯定低 61.1% 差 18.6%

小6 肯定高 85.1% 肯定低 55.7% 差 29.4%

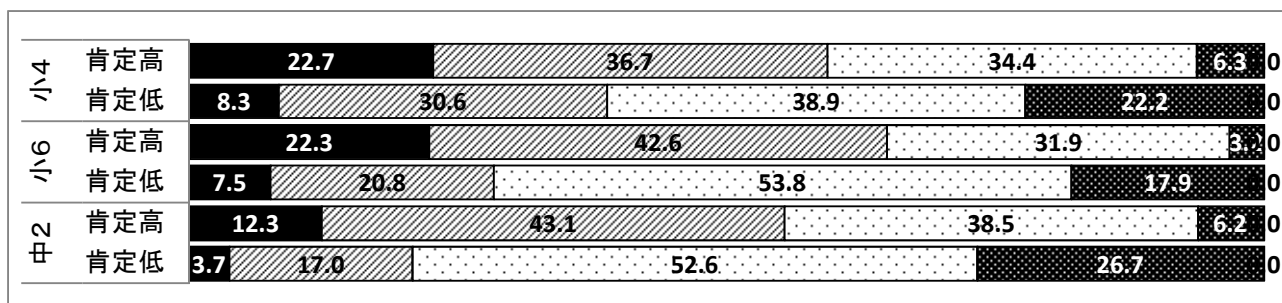
中2 肯定高 53.8% 肯定低 43.0% 差 10.8%

となり、小6の高い群、低い群、中2の低い群は「授業をうけることが楽しい」の「そう思う」「わりとそう思う」の割合を上回っている。特に中2の低い群は10%程度割合が高い。

また、小学生では、自己肯定感の高い群と低い群で「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合の差が小4で18.6%、小6で29.4%と大きく、相関関係もあった。

④ 自分の考えをみんなの前で発表している

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせた割合は、小4は52%、小6は45.5%、中2は32%でどの学年も割合が低い。



(小4 .001** 小6 .000** 中2 .000**)

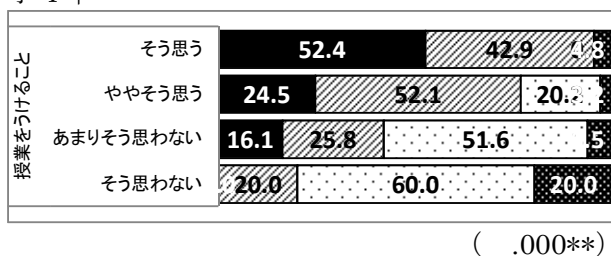
自己肯定感の低い群はみんなの前で発表していると思う割合が著しく低い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、
 小4 肯定高 59.4% 肯定低 38.9% 差 20.5%
 小6 肯定高 64.9% 肯定低 28.3% 差 36.6%
 中2 肯定高 55.4% 肯定低 20.7% 差 34.7%
 となる。中2は「授業が楽しい」と「発表する」割合に大きな差はないが、小4と小6では「授業が楽しい」と比べて、発表する割合が小4で32%、小6で16%となり低いことがわかる。

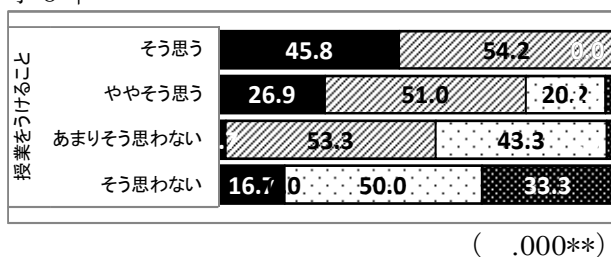
自己肯定感の高い群、低い群ともに、他の項目に比べ「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合が低い。さらにどの学年も、高い群と低い群の割合の差が大きい。

また、「授業が楽しい」と「難しい問題でもあきらめずにとりくむ」、「自分の考えをみんなの前で発表している」では相関があるのか検定した。

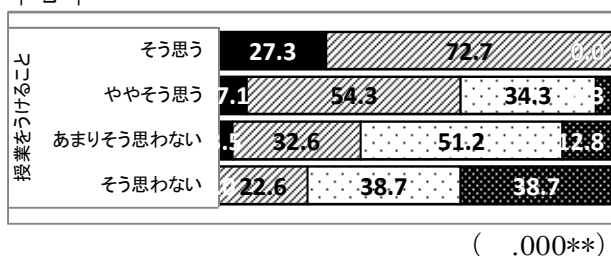
「授業を受けることが楽しい」との関係
 勉強で難しい問題にあきらめずにとりくむ
 小4年



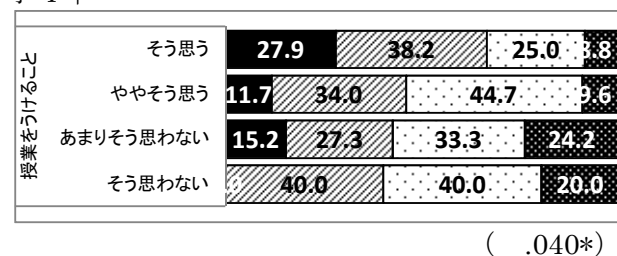
小6年



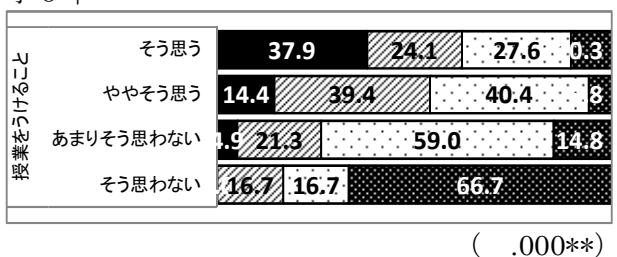
中2年



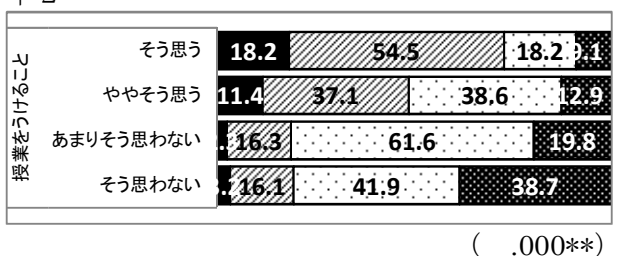
自分の考えをみんなの前で発表している
 小4年



小6年



中2

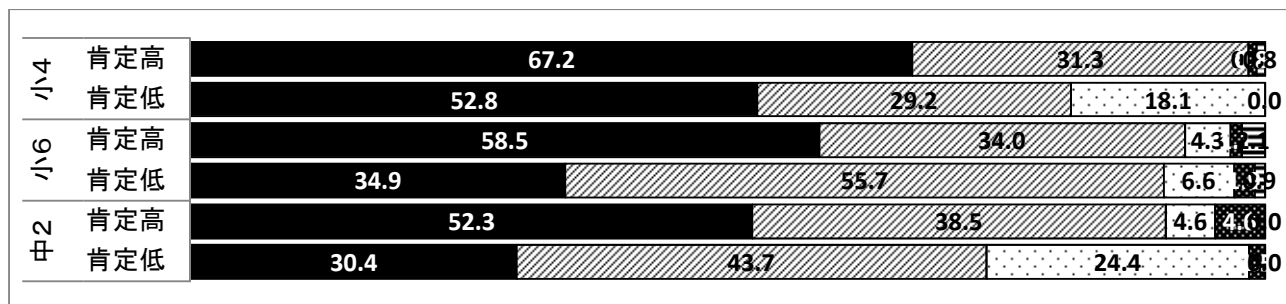


「授業が楽しい」と答えている子どもの方が「難しい問題でもあきらめずにとりくむ」と答えている割合が高い。特に、中2は顕著にその傾向がみられる。また、「授業が楽しい」と答えている子どもの方が「自分の考えをみんなの前で発表している」と答えた割合が高い。

次に、授業以外の活動では、子ども達はどうだろうか。部活や特別練習（体操・水泳・陸上など）と学校行事について調査した。

⑤ 学校行事に参加することが楽しい

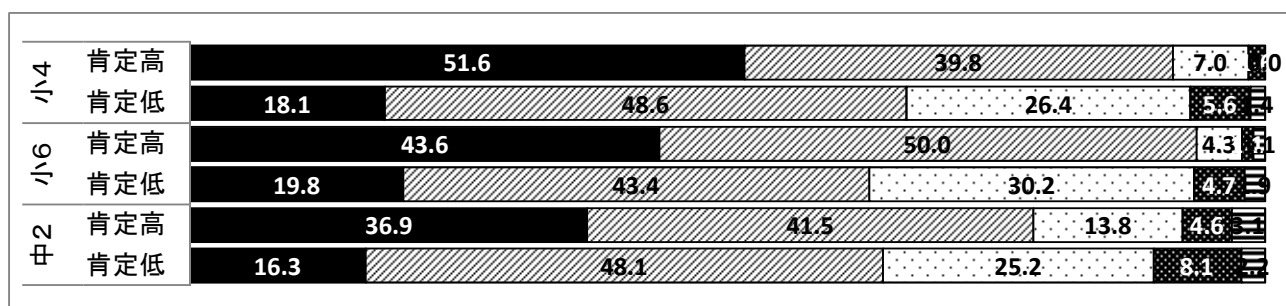
「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4は 92.5%，小6は 91.5%，中2は 79.5%と概ね行事を楽しんでいる割合が高い。



(小4 .000** 小6 .008** 中2 .001**)

⑥ 学校行事に積極的に参加する

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4が 82.5%，小6が 77.5%，中2が 69%で「学校行事が楽しい」に比べて 10%程度割合が低い。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .007**)

自己肯定感の高い群は学校行事が楽しく、積極的に参加する割合が高い。

⑤について自己肯定感の高低で、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 98.5% 肯定低 82%
 小6 肯定高 92.5% 肯定低 90.6%
 中2 肯定高 90.8% 肯定低 74.1%

となる。自己肯定感の高い群の方が、楽しいと答える割合が高いが、低い群でも 70%以上が楽しいと答えている。

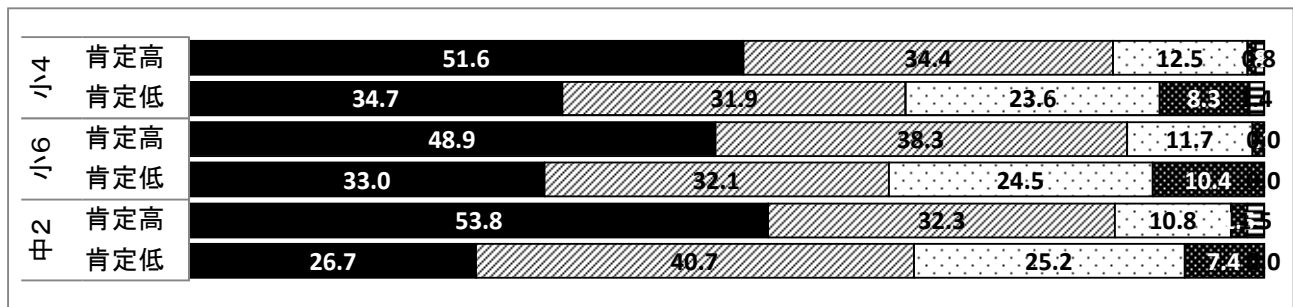
⑥については、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 91.4% 肯定低 66.7%
 小6 肯定高 93.6% 肯定低 67.2%
 中2 肯定高 78.4% 肯定低 64.4%

となる。特に自己肯定感の低い群で、積極的に参加している割合が低い。

⑦ 部活や特別練習（体操・水泳・陸上など）をしていることが楽しい

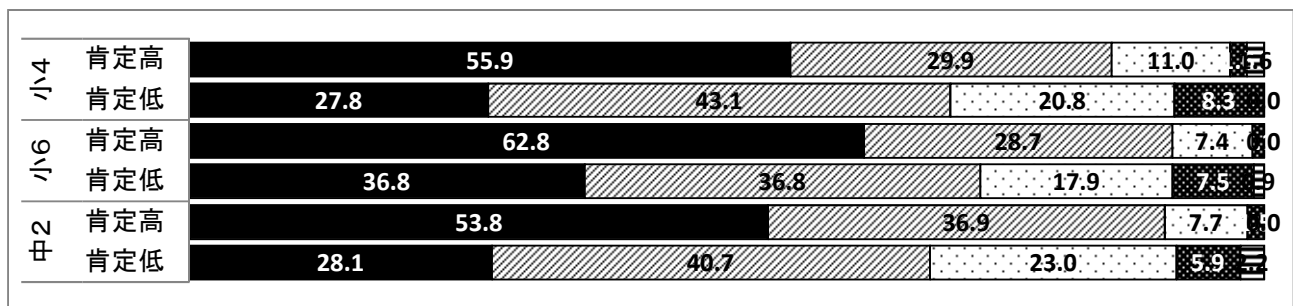
「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4が79%、小6が75.5%、中2が73.5%となり学年間で大きな差はない。



(小4 .003** 小6 .002** 中2 .001**)

⑧ 部活や特別練習に積極的に参加する

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4で80%、小6で82%、中2で76%、学年間で大きな差はない。



(小4 .000** 小6 .001** 中2 .001**)

自己肯定感が高い群は部活や特別練習に積極的に参加している割合が高い。

⑦について自己肯定感の高低で、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 86% 肯定低 66.6%

小6 肯定高 87.2% 肯定低 65.1%

中2 肯定高 86.1% 肯定低 67.4%

となる。学年間で大きな差はなく、自己肯定感の高い群の方が楽しいと答える割合が高い。

⑧については、自己肯定感の高低で、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 85.8% 肯定低 70.9%

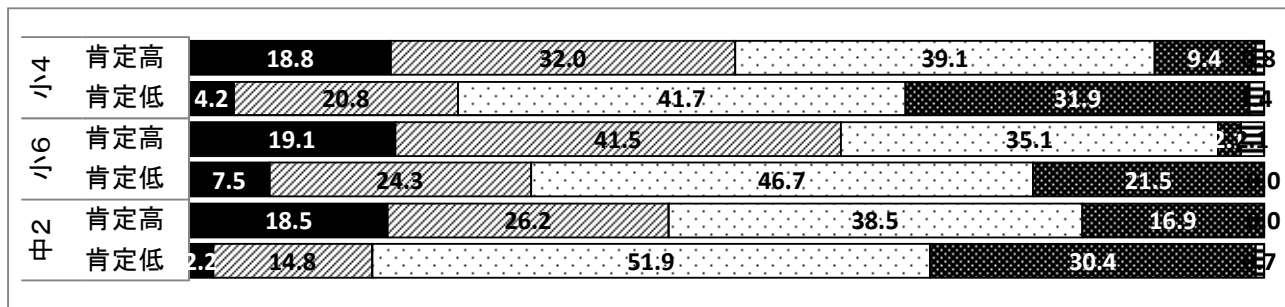
小6 肯定高 91.5% 肯定低 73.6%

中2 肯定高 90.7% 肯定低 68.8%

となる。学年間で大きな差はなく、自己肯定感の高い群の方が積極的に参加していると答えた割合が高い。

⑨ グループのリーダーになる

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は41.5%、小6は45.5%、中2は26%でどの学年も半数以下だった。特に中2の割合が低い。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .000**)

自己肯定感の低い群はグループのリーダーになると思う割合が低い。

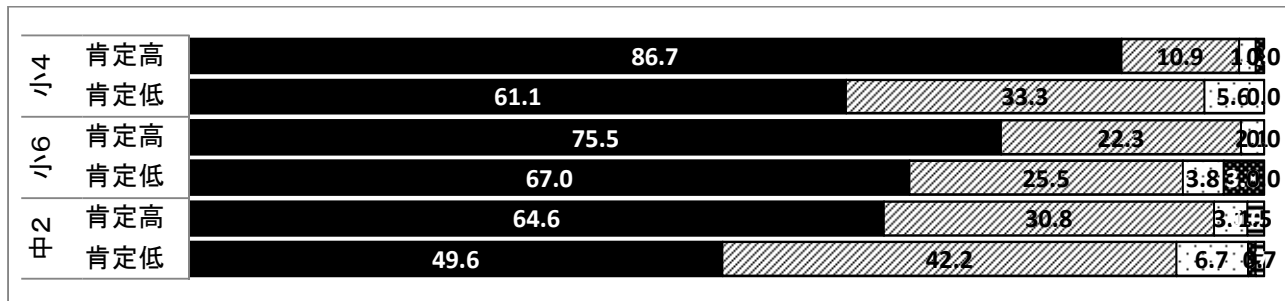
自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 50.8% 肯定低 25% 差 25.8%
 小6 肯定高 60.6% 肯定低 31.8% 差 28.8%
 中2 肯定高 44.7% 肯定低 17% 差 27.7%

となる。自己肯定感の低い群で、特に割合が低いことがわかる。中2の自己肯定感の低い群は17%と著しく低い。

⑩ 友達とよく話す

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4は96.5%、小6は95%、中2は93%で、どの学年も90%以上がよく話すと答えている。



(小4 .000** 小6 .194 中2 .185)

自己肯定感の高低に関係なく、友達とよく話す。

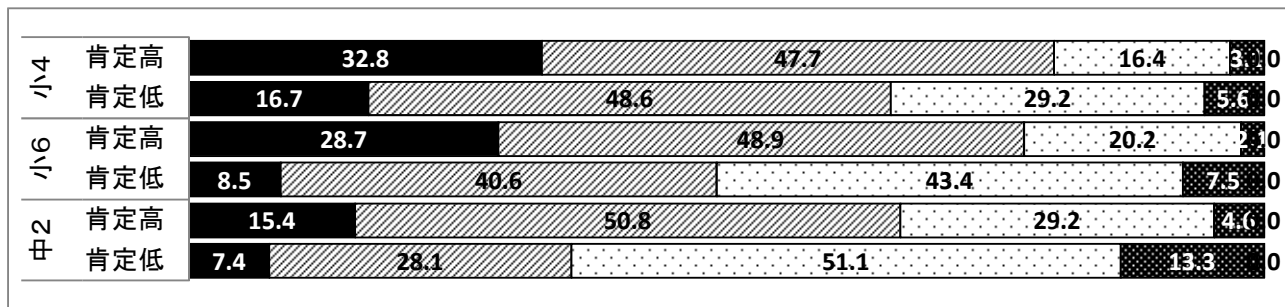
自己肯定感の高低で、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 97.7% 肯定低 94.4%
 小6 肯定高 97.9% 肯定低 92.4%
 中2 肯定高 95.4% 肯定低 91.9%

となる。小4のみ強い相関関係がみられたが、「そう思う」「わりとそう思う」を合わせると自己肯定感の高低での割合の差はみられない。

⑪ 先生とよく話す

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は75%、小6は62.5%、中2は45.5%で割合が低くなっている。



(小4 .033* 小6 .000** 中2 .001**)

自己肯定感の高い群は先生とよく話す。

自己肯定感の高低で、「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 80.5% 肯定低 65.3% 差 15.2%

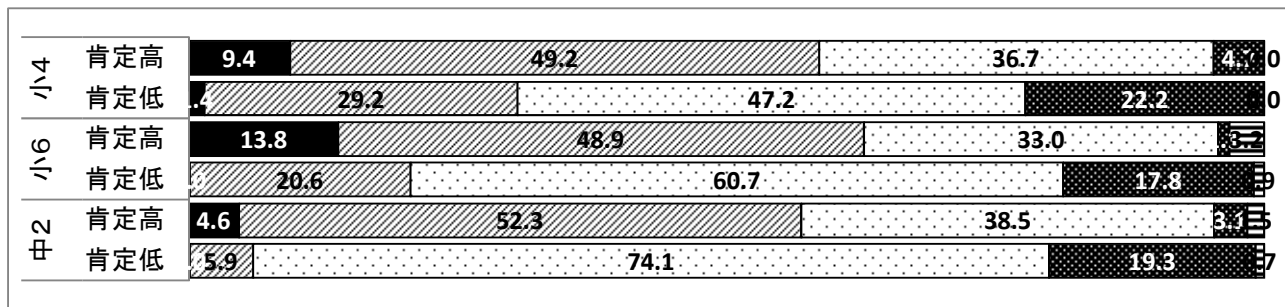
小6 肯定高 77.6% 肯定低 49.1% 差 28.5%

中2 肯定高 66.2% 肯定低 35.5% 差 30.7%

となり、自己肯定感の高い群の方が先生とよく話すと答えている。自己肯定感の高い群と低い群との差が大きく、小4で15.2%、小6で28.5%、中2で30.7%と学年が上がるにつれて、その差も大きくなっている。

⑫ 学校でよくほめられる

「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、小4は48.5%、小6は40.5%、中2は22.5%でどの学年も半数以下だった。



(小4 .000** 小6 .000** 中2 .000**)

自己肯定感が低い群はほめられると思う割合が低い。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 58.6% 肯定低 30.6% 差 28%

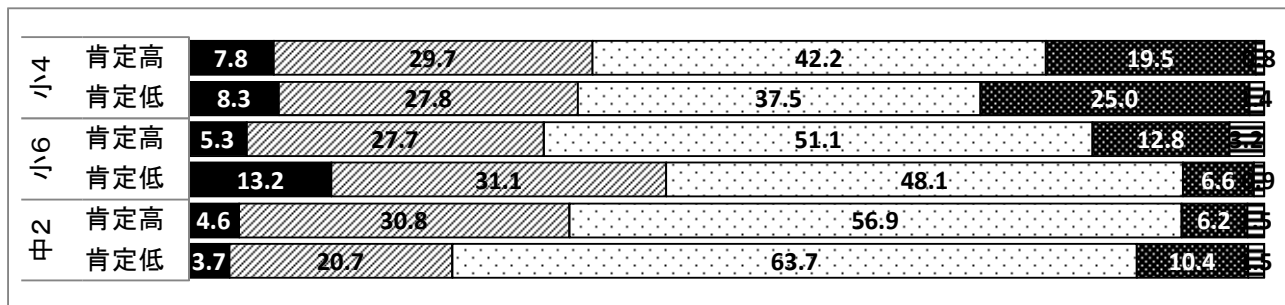
小6 肯定高 62.7% 肯定低 20.6% 差 42.1%

中2 肯定高 56.9% 肯定低 5.9% 差 51%

である。自己肯定感の高い群の方がほめられると思う割合が高く、低い群との差が大きい。自己肯定感の高い群は、学年間で大きな差はないが、自己肯定感の低い群では、小4から小6で10%程度、小6から中2で15%程度、割合が低くなる。特に中2では、ほとんどの子どもがほめられると思っていない。どの学年も自己肯定感との相関が強い。

⑬ 学校でよくしかられる

「そう思う」「わりとそう思う」を合わせて、小4は37%、小6は39%、中2は28%で、全体的にしかられるとっていない傾向にある。



(小4 .810 小6 .137 中2 .898)

どの学年も相関関係はみられない。

自己肯定感の高低でみると「そう思う」「わりとそう思う」と答えた割合は、

小4 肯定高 37.5% 肯定低 36.1%

小6 肯定高 33% 肯定低 44.3%

中2 肯定高 35.4% 肯定低 24.3%

となる。「しかられる」経験と自己肯定感との相関関係をみてみると、どの学年も相関関係はなかった。

- ・子ども達は、全体的に自分の所属するクラスが「楽しい」と感じているが、自己肯定感が高い群の方が「楽しい」と答えた割合が高かった。また、部活動についても自己肯定感が高い群の方が「楽しい」と答えた割合が高かった。このことから学校生活の中で、クラスや部活動などの集団に居場所があることが、自己肯定感の形成に重要であると考えられる。
- ・自己肯定感が高い群の方が授業は楽しいと感じている。学年が上がるにつれて「楽しい」という割合が低くなっていくのは、学習内容が難しくなるためだと考えられる。授業が楽しいことと難しい問題でもあきらめずにとりくむこと、みんなの前で発表することとの相関関係があった。このことから、授業が楽しくなれば学習に対する意欲が高まり、難しい問題にもあきらめずにとりくんだり、みんなの前で発表したりすることが増えるだろう。学習で達成感を得ることが自己肯定感を高めることにつながると考える。
- ・授業が楽しいという割合と比べて、みんなの前で自分の考えを発表する割合が低かった。発表できない要因としては、自分の考えに自信がない、クラスが自分の考えを受け入れてくれる雰囲気ではない等と考えられる。前述したように、クラスの中に自分の居場所がある。自分の存在価値があると思えば、みんなの前で発表することが増えてくるだろう。ペアや少人数グループでの発言の場を意図的に設ける等、自分の考えを伝える機会を多く経験させることが大切である。
- ・子ども達は、学校行事を楽しんでいることがわかった。積極的に参加しているかどうかについてはどの学年も割合が低くなっている。子ども達の行事への参加が受動的であることが考えられる。このことにより、一人一人に役割をもたせて主体的に行事に参加させることが大切である。

る。

- ・子どもたちは、学校行事を楽しんでいることがわかった。積極的に参加しているかどうかについてはどの学年も割合が低くなっている。子ども達の行事への参加が受動的であることが考えられる。
- ・友達との関わりについては、どの学年も自己肯定感の高低で差は見られなかったが、先生との関わりについては、自己肯定感との相関があった。このことから、先生と信頼関係を築くことや親近感をもつことなどが自己肯定感の形成に重要であると考ええる。
- ・ほめられる経験と自己肯定感との相関が強いことから、子ども達の自己肯定感の形成にほめられる経験が不可欠であると考ええる。子どもの発達段階に合わせて内容や場を考え、機会を捉えてほめることが大切である。

学校の中に子どもの居場所を作る。
自分の考えを伝える経験を多くさせる。
よいところに目を向けほめる。

第3章 研究のまとめ

1 まとめ

安房の子ども達の「自己肯定感」と「学校や家庭内での行動・考え方」の関連性を探るため、小学校4年生・6年生・中学校2年生に意識調査を行った。その分析結果は次の通りである。

子どもの調査から

(1) 自分自身について

安房の子ども達は自己肯定感の高低に関わらず、自分自身が「誰かのために何かをしたい」という意識や、「社会に役に立ちたい」という意識をもっている。自己肯定感の高い群は自分を役立つ人間だと思っており、自信をもっている。反面、自己肯定感の低い群はそのように思っていない。自信をもって積極的に様々なことにに関わり、いきいきと生活していくためには、自己肯定感を高めることが必要であると言える。

「得意なものがある」という調査項目では、自己肯定感の高低で大きな差がみられた。その差が顕著になった中2では、得意なものがあるという回答が48.1%、得意なものがないと回答しているのが51.8%と半数になっている。その理由として、自己肯定感の低い群では、発達段階において自分と他者とを比較して劣っているものを強く意識してしまい、自分自身のよさや個性に気づきにくくなっていることが考えられる。同様に「自分は目標に向かって努力している」という調査項目でも、中2では自己肯定感の高低による差が大きくなっている。これは進路や部活等で自分の目標と現実とのギャップを感じる機会が増えることが理由として考えられる。そこで、各発達段階において自分自身の分析や明確な目標の設定をすることなどの手立てを講じていく必要がある。

安房の子ども達は友達と一緒にいることが楽しく、一人でいることは好まないと考えている。このことから他者との関係を築きたいという思いをもっていることがわかる。しかし、実際には「友達といることが楽しい」と「友達とよく話す」という項目の数値に違いが見られる。そのため、どちらかという受け身的に人間関係を築いていこうとしていると考えられる。子ども達が自分から積極的に関わりを作ろうとしていくことで、他者との関わりへのハードルも低くなり、自分自身が役立つ人間だという意識が高まってくるであろう。そして、それが「いきいきとした生活」ができることにつながっていくのではないかな。そのためには、子ども達のコミュニケーション能力を育てていくことが必要になってくる。

(2) 家庭・地域との関わりについて

家族に対する意識調査の結果から、全体的な傾向として家族といることを居心地よいと感じていることがわかる。しかし、自己肯定感の高い群・低い群に分けてみると低い群の方が、家族といることを楽しいと感じていない、家族から大事に思われていない、家族のことを大切だと思っていない等、否定的な考えをもっている子どもが多い。

小学生の自己肯定感の低い群に着目すると、家族を大切だと思っていると答えている子どもと、家族から大事に思われていると答えている子どもの割合に差があることから、自分は家族を大切に思っているのに、家族からは大事に思われていないと感じている子どもがいることがわかる。

家族から自分への評価に関する意識調査においては、学年が上がるほど、ほめられたり、しかられたりしていると感じている子どもが減っている。このことから学年が上がるにつれ家族と子どもとの関わり方が変わってきているのではないかと考えられる。

自己肯定感の高い群・低い群でみると家でよくしかられるかどうかについては、あまり差がない。しかし、家でほめられることに関しては、どの学年も自己肯定感が高い方がほめられていると感じている。このことから、しかられる経験よりもほめられる経験の方が自己肯定感の形成に大きく影響している。

家でのかまりや約束に関する意識調査については、全体的に守っていると感じているが、自己肯定感が高い群・低い群の意識に差があり、どの学年も14%以上高い群の方がかまりを守っていると答えている。

以上のことより、子どもの良いところに目を向けほめ、認めることで、自信をもたせ自己肯定感を高めていくことが大切である。また、家族と子どもが十分にコミュニケーションをとる中で、親子でともにかまりや約束を作っていく、守れた時にはほめていくことが大切である。

地域との関わりについて全体的な傾向は、学年が上がるにつれ減少傾向にある。地域行事の参加については、小学生は、自己肯定感の高低に差はない。中2に関しては、20%以上の差がみられ、自己肯定感が高い子どもの方が地域行事に参加している。

挨拶に関する項目では、どの学年も自己肯定感の高い子どもの方が地域の人への挨拶をしている割合が高い。小学生でも自己肯定感の高低により差があるが、中2に関してはその差がより顕著である。

これらのことより、子どもにとって大切なことは、子ども達に地域との関わりをもたせる場面を作っていくことである。また、子ども達ができることから地域と関わり、子どもと地域が双方向の関わりを発展させていくことで、自己肯定感が高まっていき、いきいきと生活ができるようになっていくのではないかと考える。

(3) 学校生活について

子ども達は、自分の所属するクラスが「楽しい」と感じているが、自己肯定感が高い群の方が「楽しい」と答えた割合が高かった。また、部活動についても自己肯定感が高い群の方が「楽しい」と答えた割合が高かった。小学生は、学校生活の中心がクラスなのに対し、中学生はクラスだけでなく、部活動も大きな割合を占めるという違いはあるが、どちらにしても学校生活の中で、集団に居場所があることが、子ども達がいきいきとした生活をするための基盤になると考える。

学校生活の大部分を占めるのは授業である。自己肯定感の高低でみると、高い群の方が授業は楽しいと感じている。学年が上がるにつれて「楽しい」という割合が低くなっていくのは、学習内容が難しくなるためだと考えられる。授業が楽しいことと難しい問題でもあきらめずに取り組むこと、みんなの前で発表することとの相関関係があった。このことから、授業が楽しくなれば

学習に対する意欲が高まり、難しい問題にとりくむことや、みんなの前で発表することが増えるであろう。学習で達成感を得ることができれば、授業が楽しくなると考える。

授業以外の活動では、子ども達は、学校行事を楽しんでいることがわかった。積極的に参加しているかどうかについてはどの学年も割合が低くなっている。子ども達の行事への参加が受動的であることが考えられる。一人一人に役割をもたせることで、行事に主体的に参加できるのではないか。役割を果たした達成感を多く味わわせ、自信をもたせることが自己肯定感を高めることにつながるだろう。

友達との関わりについては、どの学年も自己肯定感の高低で差は見られなかったが、先生との関わりについては、自己肯定感との相関があった。このことから、先生と信頼関係を築くことや親近感をもつことなどが自己肯定感の形成に重要であると考えられる。

また、ほめられる経験と自己肯定感との相関が強いことから、子ども達の自己肯定感の形成にほめられる経験が不可欠であると考えられる。子どもの発達段階に合わせて内容や場を考え、機会を捉えてほめることが大切である。

2 子ども達がいきいきとした生活をするために

今回の調査により、子ども達の自己肯定感と学校や家庭内での行動・考え方との関連が明らかになり、いきいきとした生活をするためにはどのような手立てが考えられるかがわかった。

<提言>

家庭・地域

人との関わりを大切にする子どもに育てよう。

- ① 良いところに目を向け、ほめましょう。
- ② 親子でともにルールを作りましょう。
- ③ 地域の人に挨拶する習慣をつけましょう。

学校

子ども達の居場所を作ろう。

- ① 良いところに目を向け、ほめましょう。
- ② 一人一人に役割をもたせましょう。
- ③ 自分の考えを伝える機会を多く設けましょう。

3 課題

本調査では、安房の実態として、いきいきと生活することと自己肯定感の関係を探ることができた。今後は、自己肯定感の低さの原因や、学年が上がると自己肯定感が低くなる原因はまだわかっていない。今後は子ども一人一人に目をむけ、安房の子ども達がいきいきと生活できるようになるためにはどんな指導が有効であるかを探っていく必要がある。

また、友だちとの関わりに自己肯定感の高低による有意差がなかった。友だちや仲間との関わりが、自己肯定感の高低に及ぼす影響について、視点を変えより具体的な調査をしていく必要がある。

研究発表会における講師からの指導

1 研究発表日 平成 24 年 2 月 7 日（火）

2 講 師 小野塚計一先生（千葉県教育庁南房総教育事務所安房分室 主任指導主事）

3 指導内容

（１）主題について

- 自己肯定感を探るというテーマは、とても難しい。定義づけはしてあるが、いろいろな考え方があふ。今はこれで良いが今後も吟味を続けていくことも必要ではないか。
- 細かく調査されている。
- 児童生徒だけでなく一般的に自己肯定感について考えるよい機会になっている。

（２）アンケート及び報告書の内容から

- アンケート結果を「そう思う」「そう思わない」で答えた割合で比べることも必要ではないか。アンケート結果を○×等の二者択一で考えて考察していくと、数値が顕著になる項目が結構あるのではないか。
- 日本の子どもも大人も、自己肯定感が低いのではないか。しかし、単に自己肯定感が低いのではなく、日本人の独特の文化や考え方（謙虚さ、美德）という部分もあるといえよう。一概に自己肯定感が低い＝望ましいことではない・悪いことともとれない。
- 自己肯定感の高低は、何を基準に分けるのか？ 7 点 8 点の児童生徒は、どうとらえるべきか。基準は現在示されているものでよいだろうが、わかりやすい説明をする必要はある。
- 「自己肯定感が高い」＝「いきいきとしている」と断定するには無理がないか、再度吟味が必要な項目の洗い出しをして欲しい。
- 養護教諭部会で研究したことがある、「セルフエスティーム（自分を受け入れる）」についても参考にしてみると良い。
- どんな小さなことでも、褒める。褒められる、認められる経験を、大人（教師、親）がさせていく必要があるというまとめは納得できる。さらにどういう褒め方、認め方が有効なのか。単純に褒めれば良いというものではない。
- 「家族を大事に思っている」「家族から大事に思われている」という項目の結果を、簡単に「思われていない」と断定するのは危険である。言葉で素直に表現できていない場合やそのときの気分や状況、家庭環境等でも変わってくるため。とても重要な項目なので慎重な考察が必要であろう。
- 地域とつながっている感覚を持つことは大切である。地域の行事への参加状況は、小学生から中学生に上がるにつれ参加していないが、部活の関係があると思われる。中学生が地域に対してどういう思いを持っているのか慎重に考察をしてほしい。
- 家庭教育がしっかりできているかが重要である。特に挨拶を、家の中でしているかなど基本的な生活習慣が身についているかが大切である。
- 教師は授業が勝負。自己肯定感を高めるために、わかる授業をする。生徒指導の機能を生かした授業を実施し、充実感・満足感のある授業をめざす。

設問番号

設問

1	学年	4 年	200 人	6 年		中 2	
2	性別を教えてください。	男子	49	女子	51	無回答	0
		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
3	よく本を読んでいる。（1 つにマーク）	22.5	40	34	3.5	0	
4	よく運動をする。（1 つにマーク）	47	27	22.5	3	0.5	
5	友達といることが楽しい。（1 つにマーク）	85	14	1	0	0	
6	家族といることが楽しい。（1 つにマーク）	84.5	13.5	2	0	0	
7	ひとりでいることが楽しい。（1 つにマーク）	9.5	9.5	41.5	39.5	0	
8	部活や特別練習（体操・水泳・陸上など）をしていることが楽しい。（1 つにマーク）	45.5	33.5	16.5	3.5	1	
9	授業を受けることが楽しい。（1 つにマーク）	34	47	16.5	2.5	0	
10	学校行事に参加することが楽しい。（1 つにマーク）	62	30.5	6.5	0.5	0.5	
		1 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	2 時間以上 4 時間未満	4 時間以上	無回答	
11	テレビ・ゲーム・携帯電話・パソコン・マンガなどをどれくらいみていますか。（1 つにマーク）	38.5	29	20.5	12	0	
12	自分のなやみを話せる人はだれですか。（複数回答可）						
	親	83.5					
	兄弟姉妹	35.5					
	祖父母	35					
	友達	57					
	担任の先生	29.5					
	保健の先生	7.5					
	校長先生や教頭先生	5					
	その他の先生	5					
	スポーツクラブのかんとくやコーチ	8					
	塾の先生	7					
	インターネットの掲示板	0					
	携帯電話やメールの相手	3.5					
	話せる人はいない	4.5					
13	大切に思ってくれていると思える人はだれですか。（複数回答可）						
	親	93					
	兄弟姉妹	44.5					
	祖父母	66.5					
	友達	64.5					
	担任の先生	43.5					
	保健の先生	18.5					
	校長先生や教頭先生	20					
	その他の先生	17.5					
	スポーツクラブのかんとくやコーチ	14.5					
	塾の先生	10.5					
	インターネットの掲示板	0					
	携帯電話やメールの相手	4					
	大切に思ってくれる人はいない	1					

		ある	ない
14	将来「やってみたいこと」や「なりたい職業」など自分なりの「夢」がある。(1つにマーク)	95	5
15	苦しいけれどがんばったことや、大変だったけれど楽しかった経験がある。(1つにマーク)	96	4

		そう思 う	わりと そう思 う	あまりそ う思わな い	そう思 わない	無回答
16	自分の事が好きだ。(1つにマーク)	29.5	33.5	23.5	12.5	1
17	人から必要とされている。(1つにマーク)	23.5	41.5	27	8	0
18	いいところがたくさんある。(1つにマーク)	12.5	43.5	37.5	6.5	0
19	だれかのために何かをしたい。(1つにマーク)	61	30.5	8.5	0	0
20	得意なことがある。(1つにマーク)	71	20.5	4.5	3.5	0.5
21	目標に向かって努力している。(1つにマーク)	49	36.5	12.5	2	0
22	役に立つ人間だと思う。(1つにマーク)	10	48	33	8.5	0.5
23	社会(学級・学校・地域など)に役立つことをしたい。(1つにマーク)	44.5	42	11	2.5	0
24	家族とよく話す。(1つにマーク)	79.5	16.5	3.5	0.5	0
25	家族と一緒に夕食を食べる。(1つにマーク)	91	6.5	2	0.5	0
26	家族から大事にされている。(1つにマーク)	64	25	10	1	0
27	家族を大事に思っている。(1つにマーク)	80	17	2.5	0.5	0
28	家の人の手伝いをする。(1つにマーク)	40	39	16	4.5	0.5
29	家でよくほめられる。(1つにマーク)	23	43	25.5	8.5	0
30	家でよくしかられる。(1つにマーク)	35	35.5	25	4	0.5
31	家での約束やきまりを守っている。(1つにマーク)	32.5	46.5	13	7.5	0.5
32	学校でよくほめられる。(1つにマーク)	6.5	42	40.5	11	0
33	学校でよくしかられる。(1つにマーク)	8	29	40.5	21.5	1
34	学校での約束やきまりを守っている。(1つにマーク)	38	51	9	1	1
35	先生の話をよく聞く。(1つにマーク)	31	56.5	9.5	3	0
36	友達の話をよく聞く。(1つにマーク)	59.5	35	3	2.5	0
37	先生とよく話す。(1つにマーク)	27	48	21	4	0
38	友達とよく話す。(1つにマーク)	77.5	19	3	0.5	0
39	自分の考えをみんなの前で発表している。(1つにマーク)	17.5	34.5	36	12	0
40	係や当番の活動をしっかりと行っている。(1つにマーク)	45.5	42.5	10.5	1	0.5
41	そうじをしっかりと行っている。(1つにマーク)	42	48	9	1	0
42	勉強で難しい問題でもあきらめずにとりくむ。(1つにマーク)	30.5	42.5	21.5	4.5	1
43	わからないことや知らないことを調べる。(1つにマーク)	27	38.5	29	5.5	0
44	友達となかよく遊ぶ。(1つにマーク)	72	24	3.5	0	0.5
45	困っている友達を助ける。(1つにマーク)	30.5	50.5	17	2	0
46	グループのリーダーになる。(1つにマーク)	13.5	28	40	17.5	1
47	学校行事に積極的に参加する。(1つにマーク)	39.5	43	14	3	0.5
48	部活動や特別練習(体操・水泳・陸上など)に積極的に参加する。(1つにマーク)	45.5	34.5	14.5	4	1
49	自分のクラスは楽しい。(1つにマーク)	66.5	24	8	1	0.5
50	地域の行事(お祭り・子ども会・奉仕作業など)に参加する。(1つにマーク)	64.5	20.5	10	4.5	0
51	地域の人に挨拶をする。(1つにマーク)	44.5	42.5	10.5	2.5	0

設問番号

設問

1	学年	4 年		6 年	200 人	中 2	
2	性別を教えてください。	男子	48.5	女子	51.5	無回答	0
		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
3	よく本を読んでいる。(1 つにマーク)	20.5	36.5	36	6.5	0.5	
4	よく運動をする。(1 つにマーク)	40	28.5	23	8	0.5	
5	友達といることが楽しい。(1 つにマーク)	74.5	22.5	2	1	0	
6	家族といることが楽しい。(1 つにマーク)	64.5	29	4.5	2	0	
7	ひとりでいることが楽しい。(1 つにマーク)	9.5	20.5	40	30	0	
8	部活や特別練習(体操・水泳・陸上など)をしていることが楽しい。(1 つにマーク)	40.5	35	18.5	6	0	
9	授業を受けることが楽しい。(1 つにマーク)	14.5	52	30.5	3	0	
10	学校行事に参加することが楽しい。(1 つにマーク)	46	45.5	5.5	1.5	1.5	
		1 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	2 時間以上 4 時間未満	4 時間以上	無回答	
11	テレビ・ゲーム・携帯電話・パソコン・マンガなどをどれくらいみていますか。(1 つにマーク)	16.5	31	33	19.5	0	
12	自分のなやみを話せる人はだれですか。(複数回答可)						
	親	75.5					
	兄弟姉妹	30.5					
	祖父母	20.5					
	友達	62					
	担任の先生	22.5					
	保健の先生	7.5					
	校長先生や教頭先生	2					
	その他の先生	6					
	スポーツクラブのかんとくやコーチ	4					
	塾の先生	4					
	インターネットの掲示板	1					
	携帯電話やメールの相手	4					
	話せる人はいない	5					
13	大切に思ってくれていると思える人はだれですか。(複数回答可)						
	親	91.5					
	兄弟姉妹	42.5					
	祖父母	56					
	友達	66.5					
	担任の先生	44					
	保健の先生	13.5					
	校長先生や教頭先生	11					
	その他の先生	13.5					
	スポーツクラブのかんとくやコーチ	15					
	塾の先生	10					
	インターネットの掲示板	0.5					
	携帯電話やメールの相手	4					
	大切に思ってくれる人はいない	2.5					

		ある	ない
14	将来「やってみたいこと」や「なりたい職業」など自分なりの「夢」がある。（１つにマーク）	89	11
15	苦しいけれどがんばったことや、大変だったけれど楽しかった経験がある。（１つにマーク）	93	6.5

		そう思 う	わりと そう思 う	あまりそ う思わな い	そう思 わない	無回答
16	自分の事が好きだ。（１つにマーク）	16.5	31.5	32	20	0
17	人から必要とされている。（１つにマーク）	10	43.5	40.5	6	0
18	いいところがたくさんある。（１つにマーク）	6.5	34.5	45.5	13.5	0
19	だれかのために何かをしたい。（１つにマーク）	39.5	47.5	11	1.5	0.5
20	得意なことがある。（１つにマーク）	53.5	32.5	12	2	0
21	目標に向かって努力している。（１つにマーク）	33	47.5	16	3.5	0
22	役に立つ人間だと思う。（１つにマーク）	5.5	42.5	40.5	11	0.5
23	社会（学級・学校・地域など）に役立つことをしたい。（１つにマーク）	33	48	16.5	2.5	0
24	家族とよく話す。（１つにマーク）	67	26.5	4.5	1	1
25	家族と一緒に夕食を食べる。（１つにマーク）	77.5	16.5	3	2	1
26	家族から大事にされている。（１つにマーク）	51	35	10.5	2.5	1
27	家族を大事に思っている。（１つにマーク）	68	27	3	1	1
28	家の人の手伝いをする。（１つにマーク）	33	42	21	2	2
29	家でよくほめられる。（１つにマーク）	8.5	43.5	37.5	8.5	2
30	家でよくしかられる。（１つにマーク）	28	41.5	22.5	5	3
31	家での約束やきまりを守っている。（１つにマーク）	22	49	22.5	4.5	2
32	学校でよくほめられる。（１つにマーク）	6.5	34	47.5	10	2
33	学校でよくしかられる。（１つにマーク）	9.5	29.5	49.5	9.5	2
34	学校での約束やきまりを守っている。（１つにマーク）	22.5	56	16.5	2.5	2.5
35	先生の話をよく聞く。（１つにマーク）	22	60	14	2	2
36	友達の話をよく聞く。（１つにマーク）	54.5	37.5	5	1	2
37	先生とよく話す。（１つにマーク）	18	44.5	32.5	5	0
38	友達とよく話す。（１つにマーク）	71	24	3	2	0
39	自分の考えをみんなの前で発表している。（１つにマーク）	14.5	31	43.5	11	0
40	係や当番の活動をしっかりと行っている。（１つにマーク）	29.5	58	10.5	1.5	0.5
41	そうじをしっかりと行っている。（１つにマーク）	30.5	58.5	8.5	1.5	1
42	勉強で難しい問題でもあきらめずにとりくむ。（１つにマーク）	20.5	49	27.5	2.5	0.5
43	わからないことや知らないことを調べる。（１つにマーク）	20.5	40.5	33	6	0
44	友達となかよく遊ぶ。（１つにマーク）	61.5	31	6	1.5	0
45	困っている友達を助ける。（１つにマーク）	29.5	52	16.5	2	0
46	グループのリーダーになる。（１つにマーク）	13	32.5	41	12.5	1
47	学校行事に積極的に参加する。（１つにマーク）	31	46.5	18	3	1.5
48	部活動や特別練習（体操・水泳・陸上など）に積極的に参加する。（１つにマーク）	49	33	13	4.5	0.5
49	自分のクラスは楽しい。（１つにマーク）	49.5	36.5	10	3.5	0.5
50	地域の行事（お祭り・子ども会・奉仕作業など）に参加する。（１つにマーク）	53.5	25	17	4.5	0
51	地域の人に挨拶をする。（１つにマーク）	37	47.5	13.5	2	0

設問		4年		6年		中2	200人
1	学年						
2	性別を教えてください。	男子	42	女子	47.5	無回答	10.5
		そう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
3	よく本を読んでいる。(1つにマーク)	15.5	38.5	37.5	8	0.5	
4	よく運動をする。(1つにマーク)	36	39.5	17.5	6.5	0.5	
5	友達といることが楽しい。(1つにマーク)	66	28	5.5	0	0.5	
6	家族といることが楽しい。(1つにマーク)	34.5	46.5	15.5	3.5	0	
7	ひとりでいることが楽しい。(1つにマーク)	13.5	28	44.5	14	0	
8	部活や特別練習(体操・水泳・陸上など)をしていることが楽しい。(1つにマーク)	35.5	38	20.5	5.5	0.5	
9	授業を受けることが楽しい。(1つにマーク)	5.5	35	43	15.5	1	
10	学校行事に参加することが楽しい。(1つにマーク)	37.5	42	18	2.5	0	
		1時間未満	1時間以上2時間未満	2時間以上4時間未満	4時間以上	無回答	
11	テレビ・ゲーム・携帯電話・パソコン・マンガなどをどれくらいみていますか。(1つにマーク)	6.5	34.5	35.5	23	0.5	
12	自分のなやみを話せる人はだれですか。(複数回答可)						
	親	47.5					
	兄弟姉妹	15					
	祖父母	9.5					
	友達	69					
	担任の先生	17					
	保健の先生	2.5					
	校長先生や教頭先生	0					
	その他の先生	5.5					
	スポーツクラブのかんとくやコーチ	2					
	塾の先生	6					
	インターネットの掲示板	4					
	携帯電話やメールの相手	15					
	話せる人はいない	11					
13	大切に思ってくれていると思える人はだれですか。(複数回答可)						
	親	81					
	兄弟姉妹	35					
	祖父母	42					
	友達	61					
	担任の先生	25.5					
	保健の先生	4					
	校長先生や教頭先生	5.5					
	その他の先生	9					
	スポーツクラブのかんとくやコーチ	6.5					
	塾の先生	7					
	インターネットの掲示板	0					
	携帯電話やメールの相手	8.5					
	大切に思ってくれる人はいない	4.5					

		ある	ない
14	将来「やってみたいこと」や「なりたい職業」など自分なりの「夢」がある。（１つにマーク）	76	24
15	苦しいけれどがんばったことや、大変だったけれど楽しかった経験がある。（１つにマーク）	90.5	8.5

		そう思 う	わりと そう思 う	あまりそ う思わな い	そう思 わない	無回答
16	自分の事が好きだ。（１つにマーク）	5.5	28.5	42.5	22.5	1
17	人から必要とされている。（１つにマーク）	3	38.5	44.5	13.5	0.5
18	いいところがたくさんある。（１つにマーク）	2.5	23	56	18.5	0
19	だれかのために何かをしたい。（１つにマーク）	27	51.5	18	3.5	0
20	得意なことがある。（１つにマーク）	26	36.5	33.5	3.5	0.5
21	目標に向かって努力している。（１つにマーク）	12.5	50.5	32	4.5	0.5
22	役に立つ人間だと思う。（１つにマーク）	3	28	54	15	0
23	社会（学級・学校・地域など）に役立つことをしたい。（１つにマーク）	20	53.5	21	5.5	0
24	家族とよく話す。（１つにマーク）	42.5	40	13.5	3	1
25	家族と一緒に夕食を食べる。（１つにマーク）	69	18	8	3.5	1.5
26	家族から大事にされている。（１つにマーク）	37.5	44	13.5	3.5	1.5
27	家族を大事に思っている。（１つにマーク）	42.5	40.5	11.5	3.5	2
28	家の人の手伝いをする。（１つにマーク）	15	40.5	34	9.5	1
29	家でよくほめられる。（１つにマーク）	6	26	48.5	18	1.5
30	家でよくしかられる。（１つにマーク）	18	37.5	37.5	6	1
31	家での約束やきまりを守っている。（１つにマーク）	9.5	61	20	8	1.5
32	学校でよくほめられる。（１つにマーク）	1.5	21	62.5	14	1
33	学校でよくしかられる。（１つにマーク）	4	24	61.5	9	1.5
34	学校での約束やきまりを守っている。（１つにマーク）	22	59	14.5	2.5	2
35	先生の話をよく聞く。（１つにマーク）	9	62.5	24.5	3	1
36	友達の話をよく聞く。（１つにマーク）	36.5	56	5	1	1.5
37	先生とよく話す。（１つにマーク）	10	35.5	44	10.5	0
38	友達とよく話す。（１つにマーク）	54.5	38.5	5.5	0.5	1
39	自分の考えをみんなの前で発表している。（１つにマーク）	6.5	25.5	48	20	0
40	係や当番の活動をしっかりに行っている。（１つにマーク）	17	62	19	1.5	0.5
41	そうじをしっかりに行っている。（１つにマーク）	14	57	25.5	3	0.5
42	勉強で難しい問題でもあきらめずにとりくむ。（１つにマーク）	5.5	41	40.5	13	0
43	わからないことや知らないことを調べる。（１つにマーク）	8.5	44	38.5	9	0
44	友達となかよく遊ぶ。（１つにマーク）	48.5	42.5	7	1.5	0.5
45	困っている友達を助ける。（１つにマーク）	14.5	60	22	3	0.5
46	グループのリーダーになる。（１つにマーク）	7.5	18.5	47.5	26	0.5
47	学校行事に積極的に参加する。（１つにマーク）	23	46	21.5	7	2.5
48	部活動や特別練習（体操・水泳・陸上など）に積極的に参加する。（１つにマーク）	36.5	39.5	18	4.5	1.5
49	自分のクラスは楽しい。（１つにマーク）	31	39	18	9	3
50	地域の行事（お祭り・子ども会・奉仕作業など）に参加する。（１つにマーク）	34	35	21.5	9	0.5
51	地域の人に挨拶をする。（１つにマーク）	29	41.5	24	3	2.5